



第50回卒業証書・第21回専攻科修了証書授与式



NIT, Gifu College

岐阜高専 だより

National Institute
of
Technology,
Gifu College

第131号

2017.3.31

独立行政法人 国立高等専門学校機構
岐阜工業高等専門学校

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑 2236-2

TEL : 058-320-1211

H P : <http://www.gifu-nct.ac.jp/>

CONTENTS

- 2 校長所感
- 3 研究主事・寮務主事所感
- 4 卒業生代表の言葉
- 5 卒業生への言葉
- 6 修了生代表の言葉
修了生への言葉
- 7 研究題目
- 10 卒業・修了証書授与式
- 11 卒業生・修了生進路状況
- 12 退職教職員あいさつ
- 13 高専祭（専門展）
- 14 研修旅行 4年
- 15 研修旅行 3年
- 16 学生受賞記
- 17 教員受賞コメント
- 18 校内ニュース
- 19 コンテスト報告
- 20 クラブ紹介・同好会紹介
海外インターシップ派遣者一覧
包括交流協定等締結大学留学生受入一覧



第52回高専祭 専門展



高専ロボコン2016

校長所感



岐阜工業高等専門学校の最近の話題

校長 伊藤 義人

1. はじめに

平成28年4月に岐阜高専に赴任して1年になりました。朝7時半過ぎに校長室に入るため、毎日4時半に起きて、始発電車に乗り、2時間以上かけての通勤にもかなり慣れました。名古屋大学に勤務していた頃は、同じ時間に起きていましたが、大学で仕事を始められたのが6時半くらいでしたので、電車に乗っている時間が長くなりました。名鉄、JR東海道線、樽見鉄道とも座って、本や論文を読むことができ、樽見鉄道では沿線の富有柿の変化も楽しみました。

最近の岐阜高専を取り巻く最近の話題に関する雑感を書かせていただきます。

2. 種々の行事について

高専祭、学内球技大会、高専体育大会（地区大会、全国大会）、地区保護者懇談会、入試説明会など、土・日曜日にも種々の行事がありました。高専祭では、中夜祭と後夜祭にも参加しました。学生中心の運営がされており、特に高専祭の校長賞のある専門展は、保護者や市民に大変評判のよいものでした。学生は、種々の行事で自主・自律的に活動しており、大変頼もしく感じました。

地区の保護者懇談会では、率直な意見交換が出来ました。寮の運営などについても、多くのご意見をいただきました。

3. 国立高専機構

赴任してすぐに、国立高専機構の企画委員として、毎月開催される企画委員会・役員会の合同委員会に出席して来ました。高専にとって大事なことが決まる会議であり、種々の発言もしてきました。50年を越える各高専の独自の歴史もあり、情報が各高専にうまく伝わっていないなどの理由で、ガバナンスの難しさがよく分かりました。現場の意識と機構の考えがなかなか一致しないのが現状のようです。

また、国立高専機構の情報戦略推進本部の総合調整企画部門の部門長（副CIO）を引き受け、毎月1回東京で部門会議を開催しています。国立高専機構の情報戦略マスタープランを初めて策定し、企画委員会・役員会の承認を得ました。高専の全構成員がスケジュール感を持って、情報技術（ICT）の活用を目指すようにするためです。ICTの活用は、教育、研究、業務において、いずれも非常に大事であり、関連する情報セキュリティも非常に重要な課題に

なっています。数年前に大学で問題になったことが、高専では最近問題になっている情報セキュリティの問題も多くあります。副CIOとして、全国に配置されている高専の情報セキュリティを確保できるように努力しています。

また、最近のクラウドの進展により、今後は各高専が独自のサーバーを維持するのではなく、クラウド化を進めることによって、教育、研究、業務の高度化をはかるとともに、管理要員や費用の削減をはかる方法を検討をしています。

4. 高専イニシアティブ4.0

現在は、第3期中期目標・中期計画期間ですが、第4期中期目標・中期計画（平成31年～平成35年）に向けて、文部科学省が、答申「高等専門学校の充実について」（平成28年3月 高等専門学校の充実に関する調査研究協力者会議）を受けて、「高専イニシアティブ4.0」を企画し、「新展開事業計画」を各高専に求めてきています。すなわち、各高専の強みや特色を伸長する取組を実施するとともに、その成果を踏まえ、第4期中期目標期間におけるカリキュラムの改訂や学科等教育組織の再編などにより、社会の要請に応える取組につなげていくことが求められています。「新産業を牽引する人材育成」、「地域への貢献」、「国際化の加速・推進」の3つの方向性から一つ（あるいは複数）を選択して、新展開事業計画を作るように要請されました。岐阜高専は、学内で広く検討して、3つの新規事業計画を提出しました。優先順位はつけてありますが、多分、3つもの新規事業を提出したのは、少ないと思います。これから、文部科学省のヒヤリングと指導を受けて、平成29年2月末には最終版を提出します。

5. 今後の展望

高専の教職員は、大変多忙ですが、高専イニシアティブ4.0のような、新しい取り組みに対応できる組織にする必要があります。岐阜高専の教職員は、対応できる十分な資質を備えていると思います。学生が卒業後、岐阜高専で学んでよかったと思える学校になるために、教職員一同、種々のことに前向きに取り組むたいと思っておりますので、よろしくご支援をお願いいたします。

研究主事・寮務主事所感



高専教育の「高度化」と「国際化」

研究主事 和田 清

高専のミッションは、教育・研究・地域貢献の三本柱です。本校には、教務・学生・寮務以外にも、研究や社会連携などを担う仕事があり、私はその担当をしています。今年3月、本校は50期の卒業生を送り出します。その間、総勢約8000名の人材を輩出し、卒業生は多方面で活躍されています。同窓会「若鮎会」は1期生により設立され、現在、創設期の方々を中心に若鮎会設立50周年記念事業の準備が進行中です。

高専教育システムの特長は、早期専門教育にあると言われています。最近では、教育 AP 事業やグローバル高専事業などが展開され、電子黒板などの ICT 環境が整い AL（アクティブラーニング）や学修支援コンテンツの開発が盛んです。一昔前では難しかった学修方法が身近となり、最近では「エドテック」が

話題です。教育と技術を組み合わせた造語で、先端技術を活用して教育改善する動きです。IT に精通した人材を育成し、テクノロジーを使いこなす早期訓練が必要と考えられているのです。

一方、キャンパス内では海外からの長期留学生に加えて、短期留学生（1～4ヶ月）が滞在する機会が多くなりました。また、今年1月には、校長らがベトナムへ渡航され国立大学2校と包括交流協定を締結し、学生間の双方向交流が始まります。さらには、ベトナムなどが直面する“環境の持続可能性”と“災害に対する強靱性”を備えた都市インフラ整備について、双方の研究者が情報交換し、日本の経験を活かす教員間交流も推進したいと考えています。

このように本校では、教育や研究の「高度化」、「国際化」に力を入れています。学生が主体的に参加するアウトリーチ活動、さらには卒業研究や特別研究による学術、企業との共同研究などにより、外部と連携・協働しながら学びのプロセスを自ら PDCA を回して改善し、学びの質を向上させる取り組みです。皆さんの持続的な参画を期待しています。



寮生活②

寮務主事 麻草 淳

一般的に考えられている寮生活のメリットとして、部活や勉強に打ち込める環境である、人間関係を学べる、たくさん友達ができる、寮ならではの行事がある、規則的な生活習慣、自主性・自律心が身に付く、などが挙げられると思います。一方、デメリットとしては、プライバシーが守られにくい、融通がきかない、人間関係が面倒、などがあるでしょうか。

しかし、実際には、寮という同じ環境が与えられていても「それを生かす者」と「それに甘える者」が出てきます。「生かす者」はメリットだけでなく、デメリットさえも工夫して自分の成長に繋げていますし、「甘える者」はデメリットには不満を漏らし、メリットは履き違え気楽な方向へ流されています。昨年度から寮生の様子を見ていますと、ど

ちらのタイプに属するかは朝寝坊の回数に表れているように感じています。保護者の皆様におかれましては、成績評価と共に欠席・遅刻についても細かくご確認いただくことが、お子様の寮生活の様子を把握する1つの手立てになるのではないかと思います（朝寝坊の回数は巡回記録簿よりお知らせ可能です）。

少し話は変わりますが、意欲・協調性・粘り強さ・忍耐力・計画性などの「非認知能力」が、IQ や学力として計測される「認知能力」よりも社会的成功に結び付きやすいという研究結果があります。非認知能力は人との関わりから学び、獲得していくものであり、「生きる力」と表現されることもあります。寮生活は、非認知能力を高めていくのに恰好の場ではないでしょうか。時々、企業の採用面接で寮生活の経験が好意的に受け取られるという話を聞きます。きっと非認知能力の部分を期待されてのことだと思います。ただ、その期待に応えるには寮での過ごし方が大切です。寮生全員が非認知能力を高めるような5年間を過ごすことに期待しています。

卒業生代表の言葉



岐阜高専での生活を振り返って 機械工学科 第5学年 渡邊 佳月

私が岐阜高専機械工学科に入学してから、工学的な知識はもちろん、授業以外の生活の中でも多くのことを学ばせていただきました。5年間共に過ごした仲間たちは私にとって大切なものです。

私達機械工学科では4年生のときの高専祭専門展で6足歩行ロボットの展示を企画し、その中で私は設計に携わりました。仲間達に多くのことを手伝ってもらい、素晴らしい作品を完成させることが出来ました。これはこのクラスだからこそ出来たことだと思います。

これから私達は別々の道を歩んでいきます。そんな中でも、この岐阜高専で培った経験と仲間達をずっと大切にしていきます。5年間の経験と出会いに感謝するとともに、これからの仲間達の活躍をお祈りします。



5年過ごしての所感 電気情報工学科 第5学年 藤澤 功

高専での5年間は短く感じました。高専で長い時間を過ごし、多くの友人と知識を得ることができました。入学当初にはほぼ初対面の40人も、5年を通して様々な交友関係を築くことができたと思います。2、3、5年の高専祭では模擬店を出し、4年の専門展では、全体で同じテーマに向けて、学習した知識を成果として発表しました。その全ての経験が交友関係を育んだと思います。しかし、有意義な学生生活も終わりもう卒業となりました。それぞれ自分の道を進み、散り散りとなりますがこの5年で得た交友関係は深く、今後も関係は続いてほしいと強く思い、願います。自分もこの高専での経験を活かし、日々精進していきます。全ての教員の皆様、学生に感謝します。ありがとうございました。



かけがえのない出会い 電子制御工学科 第5学年 小森 太陽

私が5年間の高専生活で最も思い出に残った事は寮生活です。入寮当初は親元から離れ、生活にも慣れず不安だらけでしたが、同じクラス、寮内で作られたグループの仲間たちを中心に同じ学年の寮生同士協力し合って絆を深めてきました。寮生活に慣れてからは楽しい事も辛い事も、本当に多くの事を共に経験することができました。5年という歳月が経った今、家族、先生方、先輩方、クラスの仲間等々、私たちは本当に多くの人々に支えられていたからこそ、成長出来たのだと実感しています。

私にとって、寮の仲間はかけがえのない存在になりました。今日の私がいるのは寮の仲間がいてくれたおかげです。この場を借りて彼らに感謝の言葉を贈りたいと思います。5年間ありがとう。



卒業を迎えるにあたって 環境都市工学科 第5学年 浦崎 幹八郎

「世界には、君以外には誰も歩むことのできない唯一の道がある」。人生を道に喩えた、ニーチェの言葉です。この言葉のように、高専生活を道に喩えてみます。テストはどんどん難しくなり、レポートの量も膨大で、苦難多き道でした。けれども、様々な思い出に満ち溢れ、幸多き道でもありました。また、常に友が傍らに在り、迷った時に行く道を照らす灯をくれました。そして、自らの道を信じ、歩み続けることの大切さを学びました。

これから進む道は険しいかもしれませんが、この5年を糧と灯にして、迷わず歩み続けたいと思います。最後に、ニーチェは次のように続けています。「その道はどこに行き着くのか、と問うてはならない。ひたすら進め。」



卒業生代表の言葉 建築学科 第5学年 関谷 有紗加

五年間という長い時間を共に過ごした仲間と無事に卒業を迎えることができ、とてもうれしく思います。下級生を見ると、同じ頃の私たちを思い出し、「あの頃は」と思い出を話しました。どんな話をするにも「そんなこともあったなあ」と最後にはみんな笑いあっていました。別れを惜しみ卒業できるのは、苦しかったこと楽しかったことを共に経験することができたからこそだと思います。人として、技術者として世の中に貢献できるようにと多くの知識と経験と指導をくださった恩師の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。また、生まれてからこれまで私たちを支えてくれた家族をはじめ、地域の皆様、導くという貴重な経験をさせていただいた先輩たちへの感謝を忘れずに、新たな道へと進んでいきます。

卒業生への言葉



卒業に寄せて

機械工学科 第5学年担任 加藤 浩三

機械工学科の教育課程を終えられた皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは私どもの期待に応じて、この5年間で立派に成長されました。皆さん自身はお気づきでないかもしれませんが、皆さんは我が国の工業界の担い手として、非常に優秀な若者の一団です。第5学年次の早い時期に、皆さん全員が瞬間に就職先や進学先を確定されたことは、斯界の皆さんに対する大きな期待のみならず、皆さんの優秀さをも裏付けています。皆さんの今後のご活躍こそが、私ども教員にとっては生きた証であり、また誇りでもあります。今後の皆さんの人生には、明るい未来が拓けています。自信をもって着実に歩み続けてください。折々の皆さんからの朗報をお待ちしています。



卒業生の皆様へ

電気情報工学科 第5学年担任 羽淵 仁恵

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。企業からは高専生のポテンシャルは高いとよく言われます。そのポテンシャルを生かし、今後活躍されることを祈ります。

さて4、5年の担任ですが、おそらく最後になるので、いくつか新しい試みをしました。例えば本校では初めて研修旅行を海外で行うことに決めました。当時は本校で決めた高いハードルがあり海外研修は困難でした。しかし、多くの学生や保護者の方に賛同していただき、台湾での研修が実現できました。現地の大学生との英語での交流や九份の訪問など大変思い出に残る研修となりました。

5年での就職は順調でしたが進学の実績は芳しくなく、申し訳なく思っています。今後、キャリア教育や3、4年での演習科目の導入により学生のモチベーションや学力を上げていくつもりです。



卒業生に贈る言葉

電子制御工学科 第5学年担任 藤田 一彦

卒業おめでとう。卒業という節目を迎えられた皆さんに、先人から送られた格言を紹介します。以下の言葉には、人に希望を与え、人生をより豊に送るためのメッセージが込められています。この中で一つでも皆さんの琴線に響くものがあれば、それを自分のものとされ、更なる高みに自らを導かれることを切に望みます。

・一日の繰り返しは習慣を作る。習慣が生活を作る。そして生活が人生を作る。・できるか、できないのではない。やるのか、やらないのか全てである。・単純なことから、徐々に複雑なことに向かえ。そうすれば何であれ、無理なく達成することができる。これを忘れるな。・成功したいのなら、明確な目標とその鮮明な映像化が絶対不可欠である。・どんな事でもよいから、建設的なことに対してその道の第一人者になれ。・悩みは、紙に書き出すことによって、解決の糸口が見つかるものである。

人生を自分の手で切り拓いていくためには、自分の手でプランを立てて、常に自分を奮い立たせて努力していくしかありません。そうした日々の鍛錬の中で、先人に学び、書物に学び、ありとあらゆる物から学び、最後は、自ら何かを編み出すことができるような、そういう人生を送って欲しいと思います。

諸君の活躍を大いに期待し、饒の言葉とします。“Bon voyage !”



卒業生へ 夢と希望と感謝を

環境都市工学科 第5学年担任 廣瀬 康之

ご卒業おめでとうございます。さて昨今、世界的には人口増加、紛争、地球規模の環境破壊が続き、対して日本では少子高齢化、環境保全、安全防災をはじめ様々な課題が山積し、総じて持続可能性の追求が望まれるようになってきています。エルンスト・フリードリッヒ・シューマッハは、著書『Small Is Beautiful』で「このまま人口増加や環境破壊が続けば、100年以内に人類の成長は限界に達する」と述べ、また教育こそ救いとも述べています。また「今やれることをやれ」と出来る所から改善改革していくことを提案しています。

大志でもどんな小さな夢でも、希望と感謝を持って頑張ってください。そして100年後、1000年後の世界をつくっていきましょう。今後の皆さんのご多幸とご活躍を祈念いたします。



卒業生への言葉

建築学科 第5学年担任 柴田 良一

色々な苦勞があったことと思いますが、自身の努力や仲間の協力を得て、卒業という目標に到達したことは、皆さんの人生において大きな価値をもたらすことだと思います。どんなときにも自分の力を信じて、前に進んでゆける人になって欲しいと思います。特に、価値観が多様化する現代では、1つの技術だけを仕事として一生を終えることは難しいと思います。常に新しい可能性に挑戦してゆくことが求められています。

最後に、皆さんに大切にしたいものがあります。それは「人の縁」です。人は孤立しては生きてゆけません。ましてや仕事では多くの人たちと協力する必要があります。周囲に頼りにされる人間になってください。皆さんの輝かしい未来に期待しています。

修了生代表の言葉



専攻科修了にあたって 電子システム工学専攻 2年次 矢島 慎也

駆け抜けるかのような、8年でした。この期間を振り返ると、寮生活、海外留学、高専祭実行委員など学業は然ることながら、それ以外の貴重な経験もさせて頂きました。特に夏期海外インターンシップでは、提携校であるバンドン工科大学に3週間滞在しました。1年間の語学留学の経験を活かし、現地の学生と積極的にコミュニケーションを図り、また最終日には英語で研究成果についてプレゼンテーションを行うなど、非常に充実した経験になりました。

専攻科修了を迎えるにあたり、お世話になった各方面の皆様には感謝の気持ちで一杯です。特に、最後まで研究の面倒を見てくださった福永教授、本当にありがとうございました。また、経済面、精神面で支えてくれた両親にもこの場を借りて感謝の言葉を述べさせていただきます。

さて、僕は春より社会人として新生活が始まります。新しい環境に戸惑うこともあるかと思いますが、岐阜高専で経験させてもらったことを胸に、これからの人生も頑張っていきたいと思っております。



故郷

建設工学専攻 2年次 堀口 智哉

岐阜高専に入学してから、学習や研究、就職活動といった様々な場面で先生や先輩、同級生など多くの方々に支えていただき、この度専攻科を修了することができました。皆様には本当に感謝しています。

親元を離れ新たな環境で生活することへの期待と不安を胸に岐阜高専に入学してから7年が経ちました。これまでの人生の3分の1を岐阜高専で過ごし、多くの思い出が残るこの場所が今となっては第2の故郷のように感じます。生活する環境は本科生と変わらない専攻科生ですが、より自己管理が必要となる学習・研究活動、長期のインターンシップや一足先に就職していた同級生達との交流により、見える世界はこの2年間で大きく変化するように感じます。

春からは社会人になりまた新たな生活が始まりますが、専攻科で獲得した知識や経験を活かし、困難な壁も乗り越えて頑張っていきたいと思っております。

修了生への言葉



修了生への言葉

専攻科長 北川 秀夫

皆さん専攻科修了おめでとうございます。私の専攻科長就任と同時期に入学した皆さんが、早いことにもう修了ですね。

15名という岐阜高専の専攻科史上最も少ない入学者数で、入学式終了直後に留学からの復学者4名を加えてもわずか19名でのスタートでしたが、逆に少人数であったからなのか、まとまりもあって活発で楽しい学年でした。

海外インターンシップへの応募も多過ぎたため、一部の学生にはお断りしなくてはいけない事態になりました。それまでにはなかった状況です。また、この年から岐阜高専に来る短期留学生が急増したため、多くの専攻科生に支援をしていただきました。お互いの行き来を通じて貴重な交流体験になったことと思います。

皆さんは最後の電子システム工学専攻、建設工学専攻の学生になりますが、岐阜高専専攻科はこれからも続いていきます。今後の人生において様々な体験が待ち受けていると思いますが、岐阜高専専攻科修了生としての誇りを持って、何事にも挑戦していきましょう。



修了生への言葉

専攻科主任 岩瀬 裕之

専攻科修了おめでとうございます。授業や研究などの活動を通して様々なスキルを獲得されたと思います。昨今、世界が激変するような話題が報道されています。工学の分野でも人工知能やドローンなどの技術の著しい発展により、10年後になくなる仕事などの話題を頻繁に見かけるようになりました。さらに20年後、30年後はどうなるのでしょうか。

どんな環境になっても生き残っていける人材は、「その人にしかできない圧倒的な高いスキルを持つ人材」、「独自性が高く希少な人材」と言われています。圧倒的な高いスキルまで達するのに長時間がかかります。もう一つは、自分が持つそれぞれのスキルが低くても、そのスキル同士を掛け合わせることで、独自性を高め、問題解決することができる人材です。自分にスキルがなければコミュニケーションやチームワーク力により他人をも巻き込む人材です。本校のJABEEプログラムの目標の一つでもあります。まだ、「独自性が高く希少な人材」ではないかもしれませんが、専攻科で身につけた能力を活かして希少な人材となることを望みます。

研究題目

● S

学生氏名	指導教員	特別研究題目
井川 優太郎	栗山 嘉文	分割式モータの具現化と実用化に向けた基礎研究
井口 拓夢	藤田 一彦	Visual Basic 2012を用いた誘電率の温度依存性測定システムの構築
石原 一輝	福永 哲也	FPGAとCPU混在回路を用いた物体探索の高速化手法とその回路での検討
小倉 佑基	小林 義光	電流と磁束センシングによる磁気浮上系への単純適応制御の利用について
神園 知季	北川 秀夫	マルチラテラル遠隔制御のための全方向移動台車
亀山 千樹	北川 秀夫	回診支援ロボットのための特定人物の位置推定
鹿野 隼平	山本 高久	動脈管ステントグラフト内挿術下での血行動態変化に関する一考察
篠原 陽介	山田 実	モデル予測制御を用いたパワーアシストシステムの開発
田中 悠貴	小林 義光	磁場の安定性を利用した移動ロボットの屋内巡回動作の実現
中島 颯人	田島 孝治	買い物客の行動分析のためのBLEを用いた屋内測位方式検討用シミュレータの試作
野寺 祐生	石丸 和博	大気圧マイクロプラズマジェットの特性に及ぼす同軸二重管構造の効果
翠 健仁	小林 義光	変形可能な支持具を用いた低重心型二輪移動ロボットの走破性能向上
峯村 直樹	山田 実	最適性を考慮した学習制御による自動注湯機の制御
村井 正輝	北川 輝彦	非造影腹部X線CT画像における腹腔領域の自動抽出手法の検討
矢島 慎也	福永 哲也	FPGAとCPU混在回路およびカメラの深度情報を用いた障害物回避プログラムの検討
山崎 壮平	田島 孝治	地域観光用アプリケーションにおける最適な行動履歴記録方式の研究
吉永 颯斗	田島 孝治	夜間のトイレに注目した屋内用行動見守りシステムの試作

● K

学生氏名	指導教員	特別研究題目
浅野 七生哉	柴田	津波バリアーの性能評価手法と大型津波への対応方法の検証
長崎 由人	今田	ダンボールを用いたオルタナティブ公共空間の形成手法—オルタナティブ公共空間の空間計画及び構法に関する研究—
堀口 智哉	今田	まちづくりと連動した空き家ストック活用の仕組みに関する研究

● M

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
青木 崇	山田 実	物理計算エンジンによるロボットアーム制御シミュレーションモデルの構築
市橋 大樹	石丸 和博	He混合型プラズマCVD法による炭素材料合成に関する研究
稲川 幸宏	山田 実	レゴマインドストームEV3を活用した小中学生向け機械工学教育教材の開発
岩井 秀磨	本塚 智	粉碎によって形成される集合組織の回復・再結晶プロセスの解明
岩田 渉	小栗 久和	溶接構造用鋼の安定き裂先端近傍に形成されたポイドの三次元形状の構築
上原 弘之	山本 高久	三次元プリンターを用いた鋳型の試作に関する研究
大宮 春樹	本塚 智	ポッドミルによる鉄粒子の粉碎挙動と組織の解析
岡田 直也	片峯 英次	非定常強制熱対流場の形状設計

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
荻野 琢己	小栗 久和	アクリル樹脂板の衝撃強度に関する基礎的研究—インパクト質量の影響
各務 隼大	宮藤義孝	ミスト冷却における流動伝熱場を測定する実験装置の開発
片山 智貴	山本 高久	薪ストーブの熱流動解析
上谷 雄河	小栗 久和	炭素鋼の引張特性に及ぼすねじり予ひずみの影響
岸田 真幸	高橋 憲吾	車輪とレール間のさびが風によるガントリークレーンの逸走特性に及ぼす影響
北川 勢大	石丸 和博	微細アーク放電による金属箔への小径穴開け加工
斎藤 友紀雄	山本 高久	粒子画像流速測定法を用いた心臓血管の血流特性に関する研究：動脈管内循環流の形成の一考察
三川 雅和	宮藤 義孝	ミスト冷却における流動伝熱場の測定に関する基礎的研究
汐濱 和弥	石丸 和博	PEFCの特性に及ぼす水素燃料と空気との供給バランスの影響
高橋 豪	中谷 淳	超小型人工衛星用姿勢制御装置の開発に向けた基礎研究
多賀 隆晃	加藤 浩三	穴抜き加工のだれ制御についての基礎的研究—パンチ形状がだれ量分布に及ぼす影響—
田中 和真	高橋 憲吾	Scilabを用いた風によるガントリークレーンの逸走特性の可視化プログラムの開発
田中 浩輔	山田 実	3Dプリンターを用いた安心安全アイテムとしての携帯照明の製作
棚瀬 貴太	中谷 淳	缶セット打ち上げのためのC型モデルロケットの開発
辻 裕也	山田 実	3Dプリンターを用いた体験学習教材の開発
中島 章吾	片峯 英次	Freefem++による三次元弾性問題の解析
中島 徹也	石丸 和博	光触媒充填層型DBD放電を用いたオゾン生成に及ぼす中波長域紫外線照射の影響
永田 和仁	中谷 淳	宇宙教育用モデルロケット教材の開発
西野 一希	加藤 浩三	分流方式型鍛造を適用した厚手板材の平押し法
野尻 聖森	本塚 智	メカノケミカル反応による炭素繊維の表面改質装置の製作
野田 博文	中谷 淳	AF100に設置する風洞試験用模型の設計と試作
橋本 拓実	本塚 智	メカノケミカル反応による蛍光複合ナノ粒子の創製と蛍光分光装置の製作
羽田野 太希	片峯 英次	剛性制約下における体積最小化を目的とした熱弾性場の形状設計
藤野 秀太	石丸 和博	同軸二重管大気圧プラズマジェットの流動特性
堀 龍児	山本 高久	粒子画像流速測定法の各種測定条件が計測精度に及ぼす影響
水谷 将大	片峯 英次	熱変形をコントロールする非定常熱弾性場の形状設計
宮川 知也	本塚 智	粉碎による変形集合組織の形成過程の解明
宮澤 峻央	加藤 浩三	薄手CFRP材のせん断穴抜きについての基礎的研究
安江 佑人	山本 高久	アブミ骨の振動特性に関する一考察
山下 勝也	中谷 淳	缶セットの構体設計に関する基礎研究
吉田 敦哉	中谷 淳	FaSTARを用いた三次元翼の低速流れ解析に関する基礎研究
米原 和希	加藤 浩三	穴抜き加工のだれ制御についての基礎的研究—製品とくずの比較によるだれ量制御機構についての考察—
若山 典彦	小栗 久和	アクリル樹脂板の衝撃強度に関する基礎的研究—衝撃方向の影響
渡邊 佳月	山田 実	大気圧を考慮した粒子法による流れ解析

研究題目

● E

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
青山 宏明	羽淵 仁恵	グアニジン炭酸塩を用いたグラファイト状窒化炭素薄膜の合成とその光学的性質
浅井 祐輝	飯田 民夫	ペロブスカイト太陽電池の作製と分析
荒井 大嗣	所 哲郎	ポリマー材料の撥水性計測への表面荒さと吸水の影響
幾田 恭平	富田 勲	レーザー電話における音声高品質化に関する研究
大野 開世	所 哲郎	撥水性維持能力確認用 DDT に関する研究
岡本 竣樹	白木 英二	半導体可飽和吸収体を用いた超短パルスレーザーの高性能化
小川 晶大	熊崎 裕教	光熱励振した FBG による低周波振動の検出
清水 星汰	柴田 欣秀	核融合実証炉 DEMO におけるディスラプション時のプラズマ応答の初期検討
長谷川 起丈	白木 英二	パルス捕捉現象による NOLM を用いたモード同期レーザーの開発
早川 政俊	富田 勲	光ファイバー中のソリトン伝搬に関する研究
原 希弥	所 哲郎	ポリマー材料の撥水性計測への表面温度の及ぼす影響
日比 暁	富田 勲	ファイバ・ブラッグ反射器を用いたファブリ・ペロー型半導体レーザー素子の波長選択性の研究
平松 直己	柴田 欣秀	トカマク型核融合装置における制御コイルがプラズマ垂直位置制御に与える影響の調査
牧村 愛萌	富田 睦雄	低速時におけるシンクロナスリラクタンスモータの位置・速度センサレス制御
馬淵 俊弥	富田 睦雄	拡張誘起電圧に基づく同一次元オブザーバを用いた IPMSM の位置・速度センサレス制御
安田 和史	羽淵 仁恵	グアニジン炭酸塩を用いたグラファイト状窒化炭素薄膜の合成とその構造分析
山田 莉菜子	富田 睦雄	シンクロナスリラクタンスモータの位置センサレス制御のためのパラメータ測定
山元 啓太	熊崎 裕教	フィルタ用 FBG による振動測定感度の制御
板橋 美沙	白木 英二	SD-OCT による 3 次元計測
梅田 克英	出口 利憲	カオスニューラルネットワークにおける逐次学習の多層化に関する研究
岡田 名津	田島 孝治	時間コスト付き ToDo リストの設計と有用性の調査
岡地 涼輔	安田 真	共存型 GA を用いた授業時間割構築システムの開発
小島 一晃	山田 博文	畳込みニューラルネットワークを用いた表情認識に関する研究
後藤 匠	出口 利憲	深層学習を用いたゲームの局面評価の研究
高岸 大輝	安田 真	セルオートマトンを用いたウィルスの増殖シミュレーションによる感染拡大の研究
高島 久美恵	飯田 民夫	よう化鉛のペロブスカイト結晶化に関する研究
高橋 宏徳	柴田 欣秀	トカマク型核融合装置における外部摂動磁場が閉じ込め磁場に与える影響の調査
土本 寛太	山田 博文	簡易脳波計を用いたユーザインタフェースに関する研究
戸崎 巧	山田 博文	赤外線深度センサーを用いた表情認識における顔特徴点選択に関する研究
服部 修平	出口 利憲	テキストマイニングによる文書の類似度計算に関する研究
林 昌哉	田島 孝治	アドホックネットワークを活用した授業内テスト用ツールの試作
藤澤 功	田島 孝治	シングルボードコンピュータを用いた環境モニタリングシステムの試作
山口 将楓	安田 真	ランダムパラメータを用いた ACO による TSP の解法
山田 健登	出口 利憲	カオスニューラルネットワークによる逐次学習を用いた記憶検索に関する研究

● D

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
青木 皓平	長南 功男	眼球移動を入力インターフェースとするロボット操作の開発
秋山 夕哉	福永 哲也	マトリクス LED 制御回路の開発とコミュニケーションロボット用プログラムからの数値表示
浅川 大輝	小林 義光	超音波センサによる自律巡回ロボットの障害物検知
今枝 祐斗	森口 博文	同期現象に関する微分方程式の Excel による数値計算
岩田 鉄平	遠藤 登	深層学習を用いた道路標識識別
馬田 英雄	遠藤 登	タブレット端末におけるブロック線図認識アプリケーション製作
浦崎 新八郎	小林 義光	ホール素子を用いた磁気浮上制御の教材装置の小型化
遠藤 将貴	森口 博文	公開 Fortran ライブラリを利用したスペクトル法プログラム
大橋 朋幸	遠藤 登	AR.Drone2.0による自動飛行制御
小椋 弘平	長南 功男	足底感圧センサを用いた人物特定
小栗 静華	福永 哲也	音声を基にした感情表現数値の生成
加藤 留偉	小林 義光	2 自由度制御を用いた磁気浮上搬送系の伝達関数指定による追従・制振性の改善
桐山 元汰	長南 功男	モーションセンサを用いた指文字認証
小島 大輝	北川 輝彦	腹部 X 線 CT 画像を用いた肝血管腫検出手法の特徴量の検討
小島 匠賀	北川 輝彦	非造影 X 線 CT 画像を用いた Couinaud の肝区域の分類線の推定
小森 太陽	北川 秀夫	全方位カメラとレーザーレンジファインダを用いた環境認識
五藤 慎也	栗山 嘉文	赤外線 LED を用いた AR 処理の基礎研究
後藤 太志	森口 博文	数式処理ソフトを利用した非線形偏微分方程式の関数展開による解
酒井 僚也	栗山 嘉文	ハプティック制御用インターフェースの基礎研究
真田 剛揮	北川 輝彦	非造影 X 線 CT 画像を用いた膵臓領域の自動抽出手法の検討：有効なアトラス画像の作成と評価
品川 俊一郎	長南 功男	6 脚ロボットの歩行制御
霜田 晃希	北川 輝彦	機械学習法を応用した肝血管領域の抽出手法の開発
傍嶋 美月	福永 哲也	1 つのカメラ画像を基にした動作範囲の制限回路の試作
田中 誠也	小林 義光	反力提示を用いたツアールガイドロボット操作の評価
中嶋 大河	藤田 一彦	CCD カメラと FPGA ボードを用いた画像処理回路の設計・製作
丹羽 雅也	北川 秀夫	TurtleBot を用いた電子制御総合実験テーマの開発
濱崎 将	北川 秀夫	脚・節体幹ハイブリット型移動ロボットの移動方法の改良
林 拓海	藤田 一彦	DC ブラシレスモータ及び駆動制御回路の試作
菱田 源弥	北川 秀夫	全方向移動ロボットによる医師に対する追従移動
藤高 圭介	小林 義光	減速比に着目した低重心型二輪移動ロボットの改良
船越 優理	藤田 一彦	Visual Basic2012を用いた P-E ヒステリシス自動測定システムの構築
松田 基	栗山 嘉文	グローブ型ハプティックコントローラの試作設計
松永 成偉人	遠藤 登	単眼カメラを用いた距離測定によるロボット制御
松本 健汰	福永 哲也	音声による動作指示システムの開発
宮司 大河	森口 博文	擬スペクトル法による結晶成長に関する数値計算
村上 拓也	黒山 喬允	車上タイヤ音計測システムの構築に関する研究
森田 栄吾	黒山 喬允	車上タイヤ音計測におけるエンジン音の影響低減に関する研究
安田 光貴	遠藤 登	顕著性を用いた交通標識の抽出
シルヴィア	北川 輝彦	造影 X 線 CT 画像を用いた膵臓領域の自動抽出手法の検討

● C

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
今井 陽宏	和田 清	ファインパブルにおける粒度分布と洗浄効果に関する研究
岩川 恭志朗	菊 雅美	越流流量に及ぼす風の影響評価に関する研究
岩田 奨平	和田 清	河川堤防における越流破壊を防止するブロックマット工法に関する実験的研究
浦崎 幹八郎	角野 晴彦	UASB リアクターによる模擬電子産業排水の連続処理
小川 航平	水野 和憲	剛塑性有限要素法を用いた土圧算定に関する基礎的研究
神谷 颯太	坂本 淳	災害時の交通ネットワーク断絶下で提供される交通情報と対応行動の分析—平成27年関東・東北豪雨を事例として—
川合 玲於	岩瀬 裕之	安全教育用 Active Learning 教材の開発
北川 貴大	水野 和憲	基礎の根入れの効果が極限支持力に与える影響
木村 睦美	角野 晴彦	模擬電子産業排水を処理する UASB リアクターの保持汚泥の変化
國島 佑紀	水野 剛規	損傷したトラス橋の耐震性能に関する検討
國本 直樹	吉村 優治	礫を充填した排水杭の液状化対策効果の検討
児島 加奈	坂本 淳	自転車のルール違反の取り締まり強化に関わる法改正に対する市民意識の分析
櫻井 貴士	水野 剛規	連続した強い地震動を受ける鋼製橋脚の地震応答に関する研究
清水 里都季	和田 清	多段式落差工におけるエネルギー減勢効果に関する研究
白木 健太	坂本 淳	人口減少・少子高齢化社会を踏まえた地方中小都市の公共交通計画の検討—郡上市を事例として—
杉山 慧	角野 晴彦	間欠供給運転する Hi-DHS (High dissolved oxygen Down-flow Hanging Sponge) リアクターの保持汚泥の特性
鷺見 春奈	鈴木 正人	日本における降雨の時間分布特性と気温の経年変化
高井 佑介	鈴木 正人	気象観測の空間密度が観測結果に与える影響
田川 望也	和田 清	縦軸型水車の小水力発電システムの効率に関する実験的研究
竹中 大輝	吉村 優治	軟弱地盤における拡張杭の性能試験
立川 将太郎	渡邊 尚彦	タンク内構材がスロッシングに及ぼす影響評価
坪井 治樹	角野 晴彦	Hi-DHS (High dissolved oxygen Down-flow Hanging Sponge) リアクターにおける間欠供給運転の効果
富田 桃加	吉村 優治	地球温暖化抑制のための家庭での取組とその啓発
野々田 一生	岩瀬 裕之	改良した電極によるシラン系表面含浸材の撥水層厚さの推定
橋口 喬太	和田 清	山地河川における河床変動と魚道の堆積土砂量に関する研究
不破 健登	岩瀬 裕之	シラン系表面含浸材及びコンクリートを变化させた撥水層の性能評価
松浦 良太	鈴木 正人	我が国における気温と降雨特性の相関性に関する統計的検証
松岡 峻也	吉村 優治	葉色および季節による光合成量の変化に関する研究
水谷 賢司	水野 和憲	剛塑性有限要素法を用いた剛な直接基礎のモデル化と支持力解析
矢島 幹大	岩瀬 裕之	改良電極を用いたコンクリート中の深さ方向含水率分布推定法に関する基礎的研究
安田 翔哉	水野 和憲	剛塑性有限要素法による斜面安定解析と安定図表の作成
横山 壮	鈴木 正人	アンサンブル気候予測データベースと実データの降雨特性の比較
吉田 恭子	坂本 淳	地域鉄道の廃止が駅周辺の社会経済状況に与える影響に関する研究
渡邊 和也	菊 雅美	ICT を利用した効果的な水理実験のためのコンテンツ開発

● A

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
浅野 京介	下村 波基	非対称荷重を受ける部材の最適設計に関する基礎的研究—部材が鋼板で構成されている場合—
安藤 和史	今田 太郎	地域活性化の視点から見る町家オランダの評価—まちづくりと空き家活用の関連性に関する研究—
石田 大貴	鶴田 佳子	人口減少時代における中山間地域のエリアマネジメントに関する基礎的研究—持続可能性に向けた地域住民組織による活動の実態—
石塚 直人	下村 波基	高力ボルト中における拡散性水素の挙動に関する解析的研究—高力ボルト接合モデル部内での挙動—
伊藤 広樹	小川 信之	建築の専門英語表現習得のための教材・学修環境の開発—音声合成を用いた聴覚的でアクティブに学べる教材・学修環境の構築—
今尾 将也	清水 隆宏	岐阜県における木造校舎に関する基礎的研究—現存する廃校となった小学校校舎を中心として—

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
岩下 和弘	鶴田 佳子	人口減少時代における中山間地域のエリアマネジメントに関する基礎的研究—持続可能性からみた既存集落の類型化—
岩田 大樹	柴田 良一	コンクリート強度の変動性を考慮した RC 梁の数値解析による耐力評価—RC 梁要素モデルの限界状態設計法への応用と検討—
白井 碧	小川 信之	建築音響による音環境の波動シミュレーションを用いた研究—室形状と音源の位置の違いによる音響特性の変化に関する考察—
白井 琉裕也	今田 太郎	多重刺激によって構成されるシーンのデザインプロセス—重症心身障がい児の生活環境のための施設環境の在り方についての実践的研究—
大島 風香	青木 哲	部活動による周辺の音環境に与える影響—特に吹奏楽部の活動を対象として—
大前 呈成	小川 信之	ライブハウスにおける音環境空間の解析に関する研究—幾何音響を用いた室内空間の内装材・音響設備等の影響に関する考察—
小川 大地	下村 波基	在来軸組工法の耐震性能向上に関する実験的研究—2/9 モデル架構による木質耐震壁の制震性能の可能性に関する考察—
小倉 ひかる	下村 波基	高力ボルトのねじ山の噛み合わせに関する基礎的研究—FEM による解析と実験値との対応について—
加藤 健太	下村 波基	非対称荷重を受ける部材の最適設計に関する基礎的研究—部材が鋼板で構成されている場合—
川島 彩霞	今田 太郎	多重刺激床に求められる空間性能—重症心身障がい児の生活環境のための施設環境の在り方についての実践的研究—
木之村 亮飛	櫻木 耕史	T 字に交差する街路の魅力と歩行速度
木村 智彦	櫻木 耕史	施設の要素と居住地特性からみた放課後子ども教室の実施状況に関する研究
工藤 瞳	柴田 良一	オープンソース CAE を用いた流体構造連成解析に関する基礎的研究—OpenFOAM による 3 次元構造物の振動挙動の分析—
國枝 佳祐	青木 哲	レンチキュラー原理を用いた日射遮蔽手法に関する基礎的研究—レンチキュラーシートの透光・遮熱特性の把握—
熊崎 将義	青木 哲	病院施設内の輝度・照度の実態調査—重症心身障がい児施設 S における室内照明の実態把握と提案—
小林 大祐	中谷 岳史	壁体における貫流熱量の実験的検討—冬季の屋外実験—
信夫 証人	清水 隆宏	紫雲山真龍寺茶室の研究
清水 信吾	櫻木 耕史	岐阜高専における施設整備の方向性に関する研究—キャンパスマスタープラン2017に向けて—
清水 楓華	青木 哲	重症心身障がい児施設 S における温湿度環境の実態把握
関谷 有紗加	犬飼 利嗣	フレッシュモルタルの透水性と硬化モルタルの透気性に関する基礎的研究—透水性と簡易透気速度の関係性及び使用材料の影響—
種市 慎也	中谷 岳史	熱的快適性の適応モデル算出と適応限界の検討—適応を考慮した日本住宅の温熱的快適性に関する研究—岐阜県の木造住宅居住者を対象にした通年の実態調査—
中田 帆南	下村 波基	在来軸組工法の耐震性能向上に関する実験的研究—円形孔周辺の有限要素法による応力解析と破断形状—
西田 真	小川 信之	建築に関する専門英語の習得に効果的な学習環境の研究—メタバースにおける遠隔地間を繋ぐ学習環境の構築—
野村 純一	鶴田 佳子	コペンハーゲン市のローカルプラン策定過程での住民参加の実態
林 紗里奈	清水 隆宏	歴史的建造物の災害時緊急調査に関する基礎的研究—災害発生時における被災状況調査方法の確立に向けた—考察—
伴野 綱亮	清水 隆宏	啓文社記念館に関する研究
廣瀬 有樹	青木 哲	建物の鉛直面が受ける日射の遮蔽に関する研究—引き上げ型ロールスクリーンを用いた照り返し制御の検討—
藤井 耀午	清水 隆宏	岐阜県における木造駅舎に関する研究
藤田 耕平	柴田 良一	Peridynamics による朝顔養生の落下物に対する安全性評価に関する基礎的検討—高速衝突による鋼板への貫通評価に関する数値解析手法—
古田 侑里	今田 太郎	郡上八幡 M 邸におけるケーススタディ—セルフリノベーションの計画論構築に向けた実践的研究—
堀口 七彩	青木 哲	日幼稚園における空調機器変更に伴う冬季室内環境の変化に関する研究
水谷 拓磨	中谷 岳史	熱湿気同時移動方程式のモデル構築—局所湿気伝達抵抗を考慮した水分ポテンシャルによる導入—
村田 侑未	小川 信之	様々な屋内プールの音響特性の解析に関する研究—幾何音響シミュレーションを用いた屋内プールの音環境解析—
横井 大	櫻木 耕史	中山道美江寺町の景観特性—中山道の街道景観に関する研究—
アシドマー	犬飼 利嗣	フライアッシュ系ジオポリマーに関する基礎的研究—モルタルの圧縮強さ特性とフロー値の経時変化に関する検討—

卒業・修了証書授与式

第50回卒業証書・第21回専攻科修了証書授与式挙

第50回卒業証書・第21回専攻科修了証書授与式が3月17日(金)午前10時から本校第一体育館で、近隣中学校の校長先生・本校教育後援会会長・同窓会(若船会)会長・名誉教授のご臨席及び卒業生・修了生の保護者が出席して挙行されました。

授与式は、校長の式辞に始まり、若船会会長の祝辞に続いて、卒業生・修了生を代表して電気情報工学科の高島久美恵さんから答辞がありました。

卒業証書を授与された学生は、機械工学科42名、電気情報工学科34名、電子制御工学科39名、環境都市工学科34名、建築学科41名、合計190名、修了証書を授与された専攻科生は、電子システム工学専攻16名、建設工学専攻3名、合計19名でした。

また、卒業生一同より卒業記念品料380,000円の贈呈があり、建築工学科のバトスーリ アシドマーさんから目録の贈呈がありました。この卒業記念品料は、卒業記念事業基金として積み立てられ、学生会評議会の審議を経て記念品が選定されることになっています。

【平成16年度以降の卒業記念品】
平成16~20年度卒業生 第一体育館綴帳 一式
平成21~25年度卒業生 ウォータークーラー 6台

平成28年度岐阜工業高等専門学校学生表彰受賞者及び学会等表彰受賞者

区分	学科名	氏名	区分	学科名	氏名	区分	学科名	氏名		
学業成績優秀賞	機械工学科	永田 和仁	精勤賞	電子制御工学科	松本 健汰	課外活動優秀者賞	電気情報工学科	荒井 大嗣		
	〃	宮川 知也		〃	村上 拓也		〃	〃	大野 開世	
	電気情報工学科	岡田 名津		〃	森田 栄吾		〃	〃	岡本 竣樹	
	電子制御工学科	小島 大輝		環境都市工学科	岩田 葉平		〃	〃	原 希弥	
	環境都市工学科	浦崎幹八郎		〃	北川 貴大		〃	〃	平松 直己	
	建築学科	國枝 佳祐		〃	杉山 慧		〃	〃	服部 修平	
	機械工学科	青木 崇		〃	不破 健登		電子制御工学科	馬田 英雄	〃	小島 大輝
	〃	岩井 秀磨		〃	松浦 良太		〃	〃	〃	五藤 慎也
	〃	北川 勢大		〃	安田 翔哉		〃	〃	〃	傍嶋 美月
	〃	沙濱 和弥		建築学科	吉田 恭子		〃	〃	〃	菱田 源弥
精勤賞	〃	高橋 豪	〃	岩下 和弘	〃	〃	〃	松永成偉人		
	〃	田中 浩輔	〃	岩田 大樹	〃	〃	〃	村上 拓也		
	〃	西野 一希	〃	木村 智彦	環境都市工学科	岩川 恭志朗	〃	〃	櫻井 貴士	
	〃	野田 博文	〃	熊崎 将義	〃	〃	〃	〃	高井 佑介	
	〃	宮川 知也	〃	野村 純一	〃	〃	〃	〃	橋口 喬太	
	〃	宮澤 峻央	〃	古田 侑里	〃	〃	〃	〃	伊藤 広樹	
	〃	若山 典彦	機械工学科	永田 和仁	〃	〃	〃	〃	小倉ひかる	
	電気情報工学科	大野 開世	〃	藤野 秀太	〃	〃	〃	〃	関谷有紗加	
	〃	岡本 竣樹	電子制御工学科	小島 大輝	〃	〃	〃	〃	廣瀬 有樹	
	〃	原 希弥	〃	宮司 大河	〃	〃	〃	〃	田中 悠貴	
精勤賞	電子制御工学科	青木 皓平	建築学科	伊藤 広樹	〃	〃	〃	〃	峯村 直樹	
	〃	浦崎幹八郎	〃	伊藤 広樹	学生模範賞	電子システム工学専攻	〃	〃	〃	
	〃	加藤 留偉	機械工学科	各務 隼大	(社)日本機械学会山賞	機械工学科	宮川 知也	〃	〃	
	〃	酒井 傑也	〃	岸田 真幸	電気学会東海支部長賞	電気情報工学科	馬淵 俊弥	〃	〃	
	〃	霜田 晃希	〃	北川 勢大	計測自動制御学会中部支部支部賞学業優秀賞	電子制御工学科	浦崎幹八郎	〃	〃	
	〃	傍嶋 美月	〃	棚瀬 貴太	全国高専土木学会近畿賞	環境都市工学科	橋口 喬太	〃	〃	
	〃	中嶋 大河	〃	辻 裕也	土木学会中部支部支部賞	環境都市工学科	浦崎幹八郎	〃	〃	
	〃	林 拓海	〃	藤野 秀太	(公社)土木学会土木教育賞	環境都市工学科	浦崎幹八郎	〃	〃	
	〃	菱田 源弥	〃	山下 勝也	岐阜県建築士会賞	建築学科	藤井 耀午	〃	〃	
	〃	藤高 圭介	電気情報工学科	浅井 祐輝						

若船会特別優秀学生賞受賞者

区分	学科名	氏名	表彰理由
特別優秀学生賞	機械工学科	宮川 知也	卒業研究及びその発表、または所属学科内の活動において、特に優秀と認められたため。
	電気情報工学科	藤澤 功	
	電子制御工学科	安田 光貴	
	環境都市工学科	浦崎幹八郎	
	建築学科	岩下 和弘	

若船会表彰受賞者

区分	所属部	学科(専攻)名	氏名	表彰理由	
課外活動体育系(団体の部)	柔道部(男子)	-	-	地区高専体育大会 男子団体 優勝(24年連続) 全国高専体育大会 男子団体 準優勝 岐阜県学生柔道優勝大会 男子団体 優勝(6年連続)	
	バドミントン部(男子)	-	-	地区高専体育大会 男子団体 優勝	
	バドミントン部(女子)	-	-	地区高専体育大会 女子団体 優勝	
	卓球部(女子)	-	-	地区高専体育大会 女子団体 優勝	
	ラグビーフットボール部	-	-	地区高専体育大会 優勝	
	テニス部(男子)	-	-	全国高専体育大会 3位	
	ソフトテニス部(男子)	-	-	地区高専体育大会 男子団体 優勝 全国高専体育大会 男子団体 3位	
	陸上競技部(男子)	-	-	地区高専体育大会 男子団体 優勝	
	陸上競技部(女子)	-	-	全国高専体育大会 女子団体 準優勝	
	水泳部(男子)	-	-	地区高専体育大会 男子総合 優勝	
体育系(個人の部)	柔道部	機械工学科	山下 勝也	地区高専体育大会 男子個人60kg級 優勝 全国高専体育大会 男子個人60kg級 3位 地区高専体育大会 男子個人73kg級 優勝 全国高専体育大会 男子個人73kg級 3位	
		電気情報工学科	荒井 大嗣	全日本ジュニア体重別選手権 岐阜県予選 男子個人60kg級 優勝 岐阜県学生柔道選手権大会 60kg級 優勝 岐阜県体重別選手権 60kg級 優勝(成年男子団体選手決定)	
		電子制御工学科	傍嶋 美月	全国高専体育大会 女子個人63kg超級 優勝(5年連続)	
		電気情報工学科	浅井 祐輝	地区高専体育大会 男子200m平泳ぎ 優勝 地区高専体育大会 男子100m平泳ぎ 優勝 地区高専体育大会 男子800mフリーリレー 優勝	
		機械工学科	西野 一希	地区高専体育大会 男子砲丸投 優勝	
	陸上部	電子制御工学科	村上 拓也	全国高専体育大会 男子4×100m 2位 全国高専体育大会 男子4×400m 2位	
		環境都市工学科	安田 翔哉	地区高専体育大会 男子4×400m 優勝	
		建築学科	関谷 有紗加	地区高専体育大会 女子100m 優勝 地区高専体育大会 女子200m 優勝 全国高専体育大会 女子4×100m 3位 全国高専体育大会 女子100m 3位	
			電子制御工学科	菱田 源弥	地区高専体育大会 男子個人の部 優勝 全国高専体育大会 男子個人の部 優勝
			環境都市工学科	野々田 一生	第54回岐阜県吹奏楽コンクール きらめき賞受賞
文化系(個人の部)	吹奏楽部	建設工学専攻	堀口 智哉	平成28年度/バテントコンテストでの特許出願支援対象発明として選出	
技術系(個人の部)	-	電子システム工学専攻	石原 一輝	平成28年度/バテントコンテストでの特許出願支援対象発明として選出	
		電子システム工学専攻	鹿野 隼平	平成28年度/バテントコンテストでの特許出願支援対象発明として選出	
		電子システム工学専攻	篠原 陽介	平成28年度/バテントコンテストでの特許出願支援対象発明として選出	
		電気情報工学科	牧村 愛萌	SPEC2016-Aucklandにおいてオンラインセッションで発表	
本校学生の範となる行為	-	電気情報工学科	荒井 大嗣	第71回国民体育大会 2016希望郷いわて国体 出場	
本校の名を高める行為	-	電気情報工学科	荒井 大嗣	第71回国民体育大会 2016希望郷いわて国体 出場	
本校の発展への寄与	テニス部	-	-	テニスを通じた地域貢献について、日本テニス協会から2016テニスの日特別賞を受賞	

卒業生・修了生進路状況

平成28年度卒業生・修了生の求人状況と進路の総括表

学科別	卒業生数			就職			進学			その他		
	男	女	計	求人数	求人倍率	就職者数	大学・専攻科進学者数	大学・専攻科進学者数	大学・専攻科進学者数	専修学校・各種学校・研究生等	専修学校・各種学校・研究生等	専修学校・各種学校・研究生等
機械工学科	42	0	42	417	19.0	22	20	0	20	0	0	0
電気情報工学科	29	5	34	457	25.4	16	11	2	13	2	1	3
電子制御工学科	36	3	39	638	33.6	17	19	1	20	0	0	0
環境都市工学科	29	5	34	252	11.0	18	11	0	11	0	0	0
建築学科	28	13	41	134	5.2	15	12	2	14	1	0	1
計	164	26	190	1898	17.6	88	73	5	78	3	1	4

専攻別	修了者数			就職			進学			その他		
	男	女	計	求人数	求人倍率	就職者数	大学院進学者数	大学院進学者数	大学院進学者数	専修学校・各種学校・研究生等	専修学校・各種学校・研究生等	専修学校・各種学校・研究生等
電子システム工学専攻	16	0	16	482	53.6	9	7	0	7	0	0	0
建設工学専攻	3	0	3	206	103.0	2	1	0	1	0	0	0
計	19	0	19	688	62.5	11	8	0	8	0	0	0

平成28年度卒業生・修了生の進路状況

学科・専攻	本科		専攻科		合計(人)	会社・大学名	学科・専攻	本科		専攻科		合計(人)	会社・大学名	学科・専攻	本科		専攻科		合計(人)			
	准学士	学士	准学士	学士				准学士	学士	准学士	学士				准学士	学士						
【建設業】							【輸送用機械器具製造業】							【国家公務】								
エヌ・ティ・ティ・インフラネット㈱			1		1		アイシン精機㈱		1			1		国土交通省			3			3		
㈱大林組					1	1	㈱アドヴィックス			1		2	3	小計			3			3		
㈱鴻池組				1	1		シロキ工業㈱		1													
五洋建設㈱			1		1		太平洋工業㈱	1						【地方公務】								
三機工業㈱			1		1		東海交通機械㈱	1						一宮市			1			1		
ジェイアール東海建設㈱			1		1		東レ・カーボンマジック㈱	1						岐阜県			1			1		
関ヶ原石材㈱			1		1		ナブテスコ㈱岐阜工場		1	1				小計			2			2		
タイタン㈱			3		3		小計	3	2	2		2	9	【大学院】								
㈱竹中工務店			1		1		【その他の製造業】							筑波大学大学院					2	2		
中電不動産㈱			1		1		シチズン時計メニェアックチャリング㈱	1				1		大阪大学大学院					3	3		
東芝プラントシステム㈱	1				1		㈱園水金属	1				1		名古屋工業大学大学院						1		
戸田建設㈱			2		2		小計	2			2			奈良先端科学技術大学院大学					2	2		
㈱銚子イライティングエンジニアリング㈱			1		1		【電気・ガス・熱供給・水道業】							小計					7	1	8	
小計	1		2	12	16		大阪ガス㈱					1		【大学編入学】								
【食料品・飲料・たばこ・飼料製造業】							中部電力㈱		2	1	2	3	8	千葉大学				1		1		
カゴメ㈱	1				1		東邦ガス㈱	1		2	1	4	4	東京工業大学			1			1		
サントリービール㈱			1		1		東京ガス㈱	1		1	1	3	3	長岡技術科学大学	2			1		3		
小計	1		1		2		小計	2	2	2	5	5	16	金沢大学	1					1		
【繊維工業・バルブ・家具・装備品製造業・印刷関連業】							【情報通信業】							福井大学	1			1		2		
(独)国立印刷局			1		1		NHK	1				1		岐阜大学	3	1	5			9		
倉敷紡績㈱	1				1		NTTコムエンジニアリング㈱	1	1			1		静岡大学		1				1		
小計	1		1		2		㈱光和マイクロプロジェクト	1				1		名古屋大学	1	1	2			3		
【化学工業・石油・石炭製品製造業】							デンソーテクノ(株)				1	1		名古屋工業大学	1					1		
旭化成㈱			1		1		㈱フリーダム		2			2		豊橋技術科学大学	1	1	4		2	8		
サン電子㈱			1		1		小計	4	1		1	6		三重大学	1	1				2		
㈱日本触媒			1		1		【運輸業・郵便業】							大阪大学		1				1		
小計	1		1		3		東海旅客鉄道㈱	1		1	2		4	神戸大学			1			1		
【窯業・土石製品製造業】							中日本高速道路㈱				1	1	2	香川大学				1		1		
TOTO㈱					1		小計	1	1	3	1	6		岡山大学	2					2		
日本特殊陶業㈱	1		2		3		【卸売業・小売業】							広島大学	1		1			2		
㈱ユニソン			1		1		アマゾンジャパン㈱	1					1	熊本大学				1		1		
小計	1		2		5		フジ大理石㈱					1	1	大阪府立大学	1					1		
【金属製品製造業】							小計	1		1		2		千葉工業大学						1		
㈱IXIL	1		1		3		【専門・技術サービス業】							小計	14	4	11	7	6	42		
森松工業㈱			1		1		いすゞエンジニアリング㈱	1					1	【専攻科】								
小計	1		1		5		㈱NTTファシリティーズ				1	1	2	岐阜工業高等専門学校	6	9	9	4	8	36		
【はん用・生産用・業務用機械器具製造業】							川重岐阜エンジニアリング㈱	1					1	小計	6	9	9	4	8	36		
オークマ㈱	1				1		(公財)岐阜県建設研究センター						1	【各種学校】								
キヤノン㈱			1		1		㈱サイマックス				1	1	1	名古屋デザイナー学院			1			1		
神鋼造機㈱	1				1		ジェイアール東海コンサルタンツ㈱				1	1	1	小計			1			1		
新東工業㈱					1		大日コンサルタンツ(株)				2	2	2	【上記以外】								
㈱タダノ	1				1		竹田設計工業㈱	1				1	1	研究生						1		
三菱重工業㈱			1		1		㈱タマディック				1	1	1	自営			1			1		
村田機械㈱	1				1		中菱エンジニアリング㈱	1			1	2	2	未定			2			2		
ヤマザキマザック㈱	1				1		㈱テイクコ				1	1	1	小計			2	1	1	4		
小計	5	2			8		㈱森村設計				1	1	1	合計	42	34	39	34	41	16	3	209
【電気・情報通信機械器具製造業】							三菱電機エンジニアリング㈱	1	2			3										
コスモリサーチ㈱	1				1		小計	3	2	2	5	4	2									
セイコーエプソン㈱					1		【サービス業】															
㈱ディー・エス・ジー			2		2		㈱NTTフィールドテクノ				1		1									
東芝メディカルシステムズ㈱			1		1		中部国際空港施設サービス㈱				1		1									
日本信号㈱					1		三菱電機ビルテクノサービス㈱				1		1									
富士電機㈱			1		1		小計				1	2	3									
ブラザー工業㈱	1				1																	
三菱電機㈱			1		1																	
㈱明電舎	1				1																	
小計	2	3	3		2																	

退職教職員あいさつ

退職にあたり

一般科目（人文） 福井 駿



本年度をもって、岐阜高専を退職することになりました。2年間というわずかな期間ではありましたが、学生の皆さんと共に学び、成長することのできた充実した時間であったと感じております。力不足の目立つ教員であった私と様々な形で関わってくれた学生の皆さんに感謝いたします。また、このような時間を過ごすことができましたのは、あらゆる関係の方々のご厚情のおかげです。心より感謝いたします。ありがとうございました。

科学から得た教訓

一般科目（自然） 坂部 和義



定年までは少し年月がありますが、諸事情により今年度限りで退職することになりました。私は、一般科目の物理の教員でしたが、物理に興味を抱いたきっかけは、アインシュタインの相対性理論を知ったことです。時間や空間は、万人に共通の尺度を持つ絶対的なものではなく、物理的な状況により、相対的なものだとなったときの驚きと感動は、今も忘れていません。このことから得た教訓は、科学の進歩は、常識を疑うことから始まる、

退職に当たって

電子制御工学科 羽山 克章



このたびは一身上の都合で退職いたします。岐阜高専に来て、教育業に関わりながら、こちらもたくさんの方のアドバイスをいただきました。岐阜高専という場所は、学生の自由を重んじ、活気がありました。こんな中で自分は若いつもりでいましたが、やはり学生のパワーに圧倒され、教育で自分の専門知識技術を果たしてどこまで学生に納得して伝えられたか、まだまだ課題は山積みです。岐阜に来て学生からは地元の行きつけのおいしい

店を紹介され、お腹もいっぱいになるほどのたくさんの思い出ももらい、貴重な教員生活を送れました。出会いがあれば別れもあります。学生の皆さんには、これからも、その時々のお会いを大切に、人との関係を構築していき、自分の視野をどんどん伸ばしてほしい、と感じております。私もこれから何でもやれるんだ、という勢いで、心機一転して、次の職場でも活躍していきます。これまでありがとうございました。

ということ。今、当たり前だと信じられていることを、そのまま鵜呑みにしては、決して科学の進歩はありません。さらに、生きる上でも、自分が絶対に正しいと思ってしまうと、そこで成長は止まってしまう。「正しい」という基準は、時代によっても環境によっても変化します。学生の皆さんには、いつも謙虚になって、もしかしら他人の意見が正しいかも知れないと、自分の考えを反芻しつつ、人の立場を尊重できる人間になって欲しいと心から願っています。

8年間お世話になりました

環境都市工学科 坂本 淳



岐阜高専へ赴任して8年が過ぎました。これまで、岐阜高専の教職員の皆さま、保護者の皆さま、そして学生の皆さんには大変お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。振り返ってみますと、学生の皆さんとの対話を通じて成長させてもらった、かけがえのない時間だったように思います。8年前に初めて教卓に立った時の足の震えを今でも鮮明に覚えています。どのように授業を展

感謝

建築学科 中谷 岳史



民間企業から岐阜高専に着任したのは、2007年です。約10年間の高専教員を振り返ると、思い出ばかりです。年配の先生方から教育について学び、講義・部活・寮生指導を通じて学生と向き合ってきました。また岐阜県や民間企業などの地域貢献の役割も担わせていただきました。仕事を通じて多くの経験と友人を得たことは、一生の財産です。今後は経験を活かし、信州大学建築学科で一生懸命働いていきたいと思っております。

岐阜高専の教員・職員の皆様には大変御世話になりました。有難うございます。

開すればよいのか毎日のように悩んでいましたが、その答えは学生の皆さんから教わったような気がします。また卒業研究では、ゼミ生の皆さんからの斬新な提案に興奮することも度々ありました。さらに大変ありがたいことに、ゼミの卒業生から毎年研究室の交流会に招待してもらったので、昨年末、一足先に退職の挨拶をさせていただきました。今年4月からは岐阜から遠く離れてしまいますが、これからも変わらず交流会で近況を語り合うことになりそうです。最後になりましたが、この貴重な財産を背負って、次の目標に向かっていきたいと思っております。8年間、ありがとうございました。

高専祭（専門展）

計画・製作・協調

「M科大丈夫なの？」私たち機械工学科は準備がなかなか進まず、専門展が近づくとつれて、先生方、先輩だけでなく、ほかの学科の子にまで心配されるようになりました。夏休み前に計画を立てましたが、夏休み中になかなか進まず、結局製作を始めたのは10月に入ってからです。時間のないせりと、計画通りいかないこと、さらに構想の食い違いから対立することがあり、製作はペースダウンしました。クオリティどころか完成が間に合うかも怪しい状態でした。しかし最後にはみんなの完成させるんだという思いが一致し、専門展を成功させることができました。

賞は取れませんでした。クラス全員で最後まで諦めずに完成させられたことに誇りを持ちます。また計画、協調性の大切さを学びました。この経験をこれからは生かしたいです。

機械工学科 第4学年 佐藤 大輝



専門展を終えて

専門展を終えて私が感じたのは私たちのクラスの詰めの甘さでした。

準備の段階で私たちの作る物は技術的に高度なものが出来ると感じていましたし、比較的順調に進んでいるようでした。しかし、いざ本格的にブースを作っていくと各展示で問題が発生したり、調整に時間がかかったり、私が制作に参加した展示では完成が発表の20分前だったりしました。発表に於いても展示間の連携が上手くいかず、見に来てくださった方々を待たせることも多かったです。どうにも技術や理論ばかりで準備不足感が感じられた方も多かったと思います。

出来上がったものは良かった、苦勞した人には悪いが私は楽しかったです。だからこそ、あと一歩詰められれば。私たちが学ぶべきなのは技術のみではないのだと思います。

電気情報工学科 第4学年 筑間 弘樹



専門展を終えて

4Dの皆で挑んだ専門展、私はクラス代表として参加しました。代表という立場は今までに経験がなく、軽い気持ちで引き受けてしまったことを何度か後悔することもありました。学生会イベントにも乗り気でない4Dというクラスを率いるということが可能であるかと悩んでいました。しかし、レポート提出の前日に急いでレポートを書き始めるように、本番が近づくとつれて皆も進んで実験室に残って作業するようになり、夜遅くの実験室がにぎやかになりました。その甲斐あって、すべての班が無事に作品を作り上げることが出来ました。また本番も皆しっかりと発表し、無事に終わることが出来ました。賞を取ることが出来ませんでしたが、一から自分たちで構想を練り作品を作成出来たということは、確実に自分たちの力になっていると思います。そしてこれからの人生に役立つことを期待したいです。

このクラスの皆と一緒に過ごすのも残り1年余りとなりました。卒業するときこのクラスでよかったと思えるように、悔いを残すことのないように過ごしたいと思います。

電子制御工学科 第4学年 高木 久嗣



充実した高専祭

私たち環境都市工学科では、「巨大地震から生き残るために」というテーマで体験型の装置を通して発表を行いました。私たちのクラスでは、プレゼン賞、一般投票賞、総合賞の三部門で優勝することができました。

夏休み前から準備を始め、学祭1ヶ月前からは平日は21時まで、土日は9時から17時までクラスの皆が学校に集まって準備を行いました。今回は体験型の発表をコンセプトとしており、地震体験装置、岐阜県の3Dマップを用いたプロジェクションマッピング、液化化装置、津波の河川遡上装置を作成し、見に来ていただいたお客様により理解して頂けるよう工夫しました。

意見の違いや準備の疲労など大変なことがたくさんありましたが、クラスの皆で一から作り上げ、賞を取ることができた時は達成感と嬉しさがとてもこみ上げてきました。

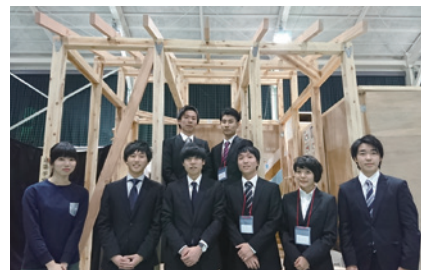
環境都市工学科 第4学年 横山 栄光



専門展を振り返って

僕たちは、実寸の構造模型を作り、一般の方に建築をもっと知ってもらおうと思いました。しかし、今まで授業で学んできたことは、教科書に載っている図やイラストの解説で、実際に作ったことは無く、まさに「置の上の水練」でした。それでも、リーダーを中心にクラス全員で調べ、考えたことによって、自分達も学ぶことができ、成長することが出来たと思います。模型を作る工事では、小さな誤差が重なり、また、材料の重みで作業が思うように進まない時もありました。ここでも、いつも扱っている図面通りには行かない、現場の厳しさを学ぶことになりました。それでも、日が経つにつれ、一人一人の意識が高まり、作業効率も上がって作品を作り上げることが出来ました。本番では、自分達が一ヶ月作ってきたものに自信を持ち、とても良いプレゼンが出来たと思います。惜しくも、受賞することは出来ませんでしたがオンリーワンの作品になったと思います。そして、数ヶ月前までは、どこか他人行儀だったクラスが一つになったと感じることが出来ました。最後に、この作品を作るに当たって指導・材料の提供をして頂いた、専門家の方、先生方には大変お世話になり、深く感謝致しております。

建築学科 第4学年 辻 寛太 伊藤 功多



研修旅行 4年

研修旅行を終えて

機械工学科 第4学年 堀田 結来

僕たち機械工学科は、本巣市から大阪を経てフェリーに乗り、九州に入りハウステンボスなどたくさんの観光名所を散策してきました。あまりにも壮大な旅で、紙面にはとても書ききれません。そのため、印象に残った部分だけ書いていきます。

旅行の道中では東レ・カーボンマジック株式会社と、TOTO 株式会社小倉第一工場を見学させていただきました。社員の方々のモノづくりに対する情熱を感じることができました。

旅先で様々なところを回り一人一人がそれぞれ様々なことを感じました。しかし、一つだけ言えるのはだれにとっても心に残る旅だったということです。これはこの旅行に携わった方々のおかげです。協力してくださった方々に感謝します。



研修旅行を終えて

電子制御工学科 第4学年 棚橋 秀斗

私たち電子制御工学科は北海道へ行きました。1日目は、川崎重工岐阜工場とトヨタ自動車元町工場を見学させていただきました。川崎重工では、飛行機やヘリコプターの製造、点検の様子を、作業場所のすぐ隣から見る事ができました。トヨタ自動車では、かんぱん方式や工具や部品がわかりやすく整理整頓されていたりと、工夫された生産ラインを見学できました。同じ乗物の生産ラインですが、それぞれ工夫された箇所の違いがわかり、とても興味深かったです。2日目以降の北海道では天候に恵まれた日も多く、素晴らしい景色を味わうことができました。4日間毎日、仲間とともにとても充実した時間を過ごすことができました。



かけがえのない時間の中で

建築学科 第4学年 川本 佳奈 本村 梨乃

今回の研修旅行では、まず、大同特殊鋼にいきました。ここでは普段見ることのできない鉄の製造過程を見ることができ、とても良い体験ができました。建築はほとんどの工程を、使う人や住む人は見ることがありませんが、その裏には多くの人の努力や汗があることを学ぶことができました。

九州では伊東豊雄さんのぐりんぐりん、ハウステンボス、軍艦島、武雄図書館に行きました。

軍艦島では、船に揺られながら酔う人も多少いましたが、軍艦島を目の前にしてそんなことも言てられないくらいの迫力、異次元にいるような感覚があっとうされ、開いた口がふさがりませんでした。ここで、たくさんの人が生活していたとは今では考えられないほどの光景でした。

天候にはあまり恵まれませんでした。1日1日1秒1秒がとても濃い4日間を過ごすことができました。専門展を通して今まで以上に仲が深まった中で研修旅行に行くことができ、本当によかったと思います。

残り1年と少しですが、クラスの仲間と過ごす毎日を大切にしていきたいです。



研修旅行に行って

電気情報工学科 第4学年 杉原 萌真

先日、研修旅行に行ってきました。4Eの行き先は関東に決まり、正直少し残念な気持ちで研修旅行に臨みましたが、バス移動に次ぐバス移動の先に待っていた施設や環境には、やはりテンションが上がってしまいました。特にJAXAでは、実際に今、宇宙空間を飛んでいる人工衛星を動かす指令室を見せてもらったり、宇宙飛行士が行う訓練の一部を体験できたりなど、貴重な経験をさせていただきました。2日目、お昼ご飯のステーキ、からの夕食が懐石料理といった、ほぼ食トレのようなご飯も、今となっては良い思い出です。高専生活の中で大きな行事である研修旅行ですが、怪我もなくおたふく風邪になることもなく行くことができて、本当に良かったです。ありがとうございました。



北海道での研修旅行を終えて

環境都市工学科 第4学年 馬場 祐花

私たち環境都市工学科の研修旅行は北海道へ行きました。比較的天候に恵まれ、多くのことを学んだ研修旅行となりました。

2日目は小樽港湾事務所や小樽市総合博物館を見学し、護岸や鉄道について学ぶことが出来ました。3日目には有珠山・洞爺湖を訪れ、山頂は-6℃という極寒の中、活火山の様子や岐阜では見ることのない豊かな自然の風景を見ることが出来ました。夜は函館山から世界三大夜景の1つともいわれる見事な夜景を鑑賞することが出来ました。4日目は函館下町を散策し、イギリス領事館や教会、赤レンガ倉庫など土地柄を感じることが出来ました。

研修旅行を通じてより専門知識の理解を深めると共に、クラス内での良い思い出作りが出来たと思います。



研修旅行 3年

研修旅行を終えて

機械工学科 第3学年 高木 勇氣

僕たちはヤマハのコミュニケーションプラザとハーモニープラザを見学してきました。コミュニケーションプラザでは、バイクの組立から出荷までの生産ラインを見学しました。そこでは、空間を活かした生産ラインや製品の均一化を図る工夫、人と機械の作業分担など、機械工学科の学生にとってとても興味深い内容を見ることができ、貴重なお話も伺うことができました。ハーモニープラザでは、グランドピアノの製造工場を見学し、ピアノがどのようにライン生産されているのかを見ることができました。多くの作業が人による細かい調整を必要とするものであり、職人と生産ラインの融合を見ることができました。これらの見学を通じて、普段学んでいることが実際のものづくりの現場でどのように活かされているかを学ぶことができ、非常に充実した研修になりました。



研修旅行を終えて

電子制御工学科 第3学年 水野 優希

僕たち3Dは、中部電力の川越火力発電所へ見学に行きました。火力発電と聞いてイメージは、「環境への害が多い発電」だと思っていましたが、川越発電所を見学し、イメージが変わりました。発電の燃料は、CO₂の排出が少ないLNG（液化天然ガス）を使用していました。また、産出地で不純物を取り除いて輸入し、1300℃級コンバインサイクル発電で、熱効率が53.9%という高い割合で発電を行っているため、とてもクリーンで効率の良いエネルギーだということがわかりました。生活に必要で大切なエネルギーを供給するお仕事をしている工場の方々に日々感謝して生活したいと思いました。

見学後は、長島スパーランドへ行き、風が強く肌寒い天候でしたが、皆で自由時間を楽しみました。



研修旅行を終えて

建築学科 第3学年 小林 祐也

僕たち建築学科は研修旅行で京都へ行きました。

京都に到着し、全員で「角屋もてなしの文化美術館」を見学しました。角屋は江戸後期に建築された建物ですが、建築構造に驚かされることは勿論、当時の木材加工技術の高さ、精密さに深く感心しました。

昼食の後はグループ行動となり、3時間ほど京都の町を自由に散策しました。そこで僕のグループは「京都府立図書館」「TIME'S」など京都の近現代建築を見て回りました。昔の雰囲気や崩さないように注意を払いながら設計されている外観のものから、近代的なデザインが施された外観を持つものまで様々な建築があり、いろいろな個性がうまく京都という街に調和しているさまを感じることができました。

今まで「歴史的な建築を見て回る」ことが目的だと思っていた京都でしたが、別の見方もあることがかなり有意義な旅になりました。



3年研修旅行で学んだ仕事のイメージ

電気情報工学科 第3学年 稲垣 虎多郎

今回、ソニーグローバルマニファクチャリング&オペレーションズ株式会社に伺い、テレビの生産ラインと、開発・設計部署を見学させていただきました。大手企業で働いている姿を近くで見たことに見て、具体的なイメージを持つことができました。僕は電気電子コースに進もうと思っているので、電気電子設計部署の高専卒の人の話を聞くことができたことが参考になりました。また、生産している工程をみて正直に思ったのが、このような物の開発に将来携わることになった時、できるようになるのかという不安でした。高専卒の先輩は、高専で学んだ基礎知識は使うが、就職してから学ぶことも多いと仰ってみえましたが、放送用カメラやハンディカメラなどの電子機器とその内部の設計をすることを思うと、高専で学べることは沢山学んだ方が良いと思いました。

研修旅行へ行って

環境都市工学科 第3学年 汲田 朱里

今回の研修旅行で、私たちは京都琵琶湖疏水記念館と水路閣へ行きました。

琵琶湖疏水記念館では、琵琶湖疏水の計画と建設の過程を示す資料や絵画などが展示されていたり、その他電気、運河、水力事業で果たした役割が分かりやすいように模型で展示されており、興味を惹かれました。次に行った水路閣では、その大きさと立派さに圧倒されました。

私たちの昼食は豪華なホテルバイキングでどれもとてもおいしかったです。

その後は各々で京都を自由に散策しました。時間はあまりありませんでしたが、充実して楽しい一日を過ごすことができてよかったです。



学生受賞記

my future hackathon 日立製作所賞

先端融合開発専攻 1年次 加納 英樹

私はマイナビ主催の「my future hackathon」において、日立製作所賞を受賞しました。ハッカソンとは、ハードウェアやソフトウェアの企画から開発までを短期間で行い、成果物の出来を競うイベントのことです。プログラミングの知識に加え、時間管理やコミュニケーションなど幅広い能力が必要とされます。今回は大学生・大学院生も交えてのイベントとなりましたが、高専生でも対等に戦えることがわかりました。



最近は情報系だけではなく、他学科に関連したハッカソンも各地で開催されているようです。ものづくりの楽しさを感じてみてはどうでしょうか。

このような賞を頂くことができ、大変嬉しく思います。日立様、マイナビ様はじめ関連企業の皆様、ご指導頂いた先生方に感謝申し上げます。

岐阜市・岐阜地区子ども会育成連合会 優良年少指導者賞を受賞して

環境都市工学科 第3学年 岩井 茜

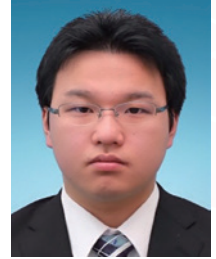
私は中学1年生から岐阜市ジュニアリーダークラブに所属しています。主な活動は、子供会へ行き、レクリエーションをすることです。子供会へ行ったときに、より小学生に楽しんでもらうため定例会というものがあります。この定例会では、個々のスキルアップとクラブ内の連携をうまく取れるように、一人ひとりが何をすればいいのか考え、実践しています。高専に入学して3年私は部活動があり、納得のいく活動ができませんでしたが、4月からは大学生で構成されたシニアリーダークラブに所属します。この3年間、部活動にすべてを捧げてきた分、4月からシニアリーダーの一員として後悔のない納得のいく活動をしたと考えています。自分にできることは限られますが、限られた中で目一杯活動し、たくさんの小学生達を楽しませてやりたいと思います。今までお世話になった陸上部の皆さんありがとうございました。部活で学んだことも生かしながらこれからの活動を頑張っていきたいと思います。



第15回情報科学技術フォーラム FIT2016 FIT 奨励賞受賞

専攻科 1年 西中 智樹

富山大学で2016年9月に行われた第15回情報科学技術フォーラム（FIT2016）において、FIT奨励賞を受賞しました。今回発表した題目は、「スマートフォン向け岐阜県外来生物情報システムアプリの有用性」というものです。



私は、環境都市工学科廣瀬准教授・電気情報工学科田島講師及び岐阜県情報技術研究所と「安全安心の清流の国づくり研究開発プロジェクト」という枠組みでiOSアプリケーションを開発しました。この研究は外来生物情報システム「ぎぶ外来生物 MAP」のスマートフォン対応に関するものです。外来生物の防除を進めるためには、外来生物の生息情報を、広く素早く正確に伝達できるシステムが必要となります。このプロジェクトにより、岐阜県内における外来生物の情報を県民やマスコミ等への情報提供を迅速且つ効率的に行うことができるようになりました。これからも研究を進め、より良いものにしていきたいと思います。

岐阜高専テニス部、 岐阜県テニス協会から松本賞受賞

テニス部顧問 空 健太

平成29年1月8日、岐阜高専テニス部（硬式テニス）は、岐阜県テニス協会から、松本賞の表彰を受けました。岐阜高専テニス部が第39回全国高等専門学校テニス選手権大会において団体第3位に入賞したことに対する表彰です。松本賞は岐阜県テニス協会、テニス競技の全国大会・国際大会において最も活躍した個人及び団体を表彰するものであり、岐阜高専が受賞するのは初めての栄誉ある表彰です。テニス部を代表し、5年生の原 希弥（はらのぞみ）が表彰式に出席し表彰を受けました。



「建築甲子園 奨励賞」を受賞して

建築学科 第3学年 安達 晃佑、岩井 蛍、大塚 史織、大庭 梨子、岡田 僚太郎、小林 真依、坪井 もも、武藤 美里

私たち8名は、担任の清水先生を監督としてチームを組み、第7回建築甲子園に参加しました。今年のテーマは「地域のくらしー空き家を活かすー」でした。そこで私たちは八百津町にある古民家に着目し、過疎化が進むこの地域で若者を取り込み、活性化を促す拠点となるような空間作りを目指しました。一人一人がそれぞれのアイデアを持ち寄り、3ヶ月以上議論を重ね、夏休みには初めての現地調査も経験し、より考えを深めていくことが出来ました。その結果、私たちの作品「田舎暮らしのすゝめ」は、岐阜県代表として全国大会に出場し、奨励賞を受賞しました。今回のコンペを通して得た経験を活かし、これからも意欲的に様々なプロジェクトに参加していきたいです。



教員受賞コメント

日本工学教育協会工学教育賞を受賞して

機械工学科 山田 実

工学教育賞は、工学教育ならびに技術者教育等に対する先導的、革新的な試みによって、その発展に多大の影響と貢献を与えた業績に対して日本工学教育協会から授与される賞です。今回の受賞は、豊橋技科大・高専の先生方12名で執筆した「制御工学―技術者のための、理論・設計から実践まで―」という教科書に対して贈られました。



この教科書は平成19年度から5年間かけて執筆しました。シラバス調査から始まり、授業内容の検討など、どのような教科書にすべきか何度か会議を開き著者の間で話し合いをしました。さらに授業資料や演習・試験問題の共有化を図りました。このように教科書を実際に執筆する以外の活動に多くの時間を割いたことは私にとっても非常によい経験となりました。本書は平成27年度に計測自動制御学会著述賞も受賞し、今回2回目の受賞となります。今後は本書をもとにした教材をさらに改良していく予定です。

岐阜県バドミントン協会感謝状

バドミントン部顧問 所 哲郎

平成28年4月の岐阜県バドミントン協会総会時に、県協会から感謝状を頂きました。本校のバドミントン部は1989年に創部し、現在に到っています。その間、高専・高校などの顧問会議への参加や大会運営等と共に、県協会の活動にも携わってきました。所は競技部門と広報部門を担当し、2000年のインターハイや2012年の清流国体などの運営に携わってきました。2007年からは県協会ホームページを立ち上げ、協会事業の広報活動に貢献してきました。これらの活動に対して、岐阜県協会から栄誉ある感謝状を頂く事ができました。



図1 岐阜県バドミントン協会感謝状

この様な社会貢献ができたことを顧問として感謝しています。現在は東海地区高専大会での男女団体・個人優勝や高校の大会での活躍の次の目標である、全国高専大会での入賞を広報できればと願っています。

地盤工学会中部支部賞(技術賞)を受けて

環境都市工学科 吉村 優治

平成27年度の「第24回調査・設計・施工技術報告会」(地盤工学会中部支部・中部地質調査業協会・建設コンサルタンツ協会中部支部共催)における論文「林地残材などの未利用木質破砕材を活用した新しい木質舗装の開発とその評価」により地盤工学会中部支部賞(技術賞)を受賞することができました。



この研究を始める契機となったのは、岐阜県研究開発財団プロジェクト創出研究会において私が平成17年度から2年間「環境負荷低減型リサイクル技術の構築に関する研究会」の座長を務めたことです。2年の間に産官学の種々専門分野が異なるメンバーによるディスカッションから岐阜県が森林面積率全国第2位である特長を活かした環境負荷低減型リサイクル技術の構築を目指し、平成18年度から卒業研究生と研究を重ねてきました。

平成22年度から2年間、岐阜県地域材利用開発支援加速化事業において「ぎふ証明材(林地残材)を活用した新しい木質舗装技術の開発」が採択され、本校と(株)遠藤造林、西濃建設(株)、(株)エスウッドとの共同研究に発展したことから構想の1つが実現しました。

提案した新しい木質舗装は、これまで林地残材や捨てられていた端材などの未利用木質破砕材を材料としていること、歩道として柔らかく歩きやすく、透水性に優れ、地球温暖化防止や凍上抑制も兼ね備えています。技術賞の対象となった舗装は、熱電対などのセンサー類が飛び出していますが、比較のために種々の舗装と一緒に本校一号館と二号の中庭に設置されています。興味のある方は、是非、歩いてみて下さい。

「全国高専フォーラムポスターセッション(教育研究活動発表)表彰賞」を受賞して

電気情報工学科 田島 孝治

高専フォーラムは高専の教職員が、日頃の教育において実施しているユニークな取り組みや、授業の事例などの紹介、企業連携とのカリキュラムをより良いものにするためのワークショップなどが開催されています。

今回は、岐阜高専で行われている実践技術ポイントの活用方法とそのためのデータベースの構築についてポスターで発表させていただきました。このデータベースは、岐阜高専が取り組んでいる文部科学省大学教育再生加速プログラム(AP)の一環として製作しました。高専生の多くは、授業以外にもTOEICや基本情報技術者、技術士試験など多くの外部資格のために自ら学習しています。また、教員と共に小中学生向けの科学教室を実施するなどボランティア活動にも参加しています。今回のデータベースはこれらの外部で得た経験を点数化し、研究室配属などに活用するためのものです。

発表では、約1年間かけて製作したWebベースのシステムを、タブレット端末を用いてデモンストレーションしました。ポスターだけでなく、動作するシステムを直に参加者にアピールできたことが受賞につながったと思っています。

岐阜高専 AP のきょうと明日

教育 AP 推進室長 所 哲郎

岐阜高専も参加する、大学 ICT 推進協議会の2016年度年次大会が、前年12月に国立京都国際会館で開催され、「大学 ICT のきょうと明日」が全体会でパネル討論されました。米国 EDUCAUSE プレシデントからの基調講演の他、多くの企業参加のある活気に満ちた会議でした。

さて、岐阜高専の文部科学省大学教育再生加速プログラム(AP)テーマⅠ・Ⅱ複合型事業についても、岐阜大学サテライトキャンパスで3月1日に年度末成果報告会を開催しました。AP採択全国6高専と、高専機構第3ブロックの全高専や、岐阜大学と豊橋及び長岡技術科学大学など、本校が教育連携する多くの大学・高専から参加頂いた成果報告会でした。

来年度から3年間はAP事業の後半です。岐阜高専の教育改革の成果が全国から注目されることとなります。岐阜高専は学校関係者全員参加の教育改革を公約しています。本校関係者全員に、全国から注目されていることを意識して頂きつつ、引き続き高専教育改革に邁進していきます。

グローバル高専事業(拠点校)報告

研究主事 和田 清

今年度、岐阜高専は第3ブロック(東海・北陸・近畿地区)の拠点校としてグローバル高専事業に採択されました。本校では、高専の創造的な実践技術者教育と英語教育を融合させた教育システムを構築するために、現在、海外10大学と包括的な国際交流協定を結んでいます。双方向型の学生・教員交流を推進しながら、教員の教育力の向上や学生の英語キャンプなどの多様な取組みを進めています。写真は、第3ブロックの教員を対象にした教育力向上のための研修制度(CompTIA CTT+認定資格)を示したものです。インストラクターが持つべき知識(CBT)とスキル(Performance Based Test)を測定し認定するものです。一方、学生交流や専門分野の研究等を通じた双方向交流も進めており、JASSOの支援により、今年度は14名の専攻科生を派遣し、20名の短・中期留学生を受け入れました。来年度は、これらの交流協定大学に加えて、高専機構や岐阜県などが連携を強めているベトナム国において、高専事業を展開したいと考えています。



第3ブロックの教員を対象にした研修制度(CTT+)

校内ニュース

平成29年度入学者選抜検査

平成29年度入学者選抜検査を次のとおり実施しました。

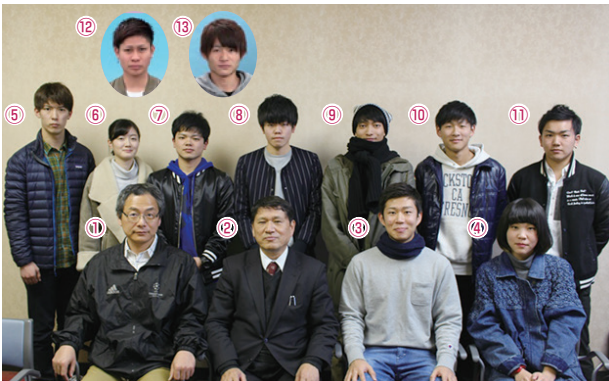
- 推薦**／願書受付：1月10日(火)～1月13日(金)必着
 選抜検査：1月21日(土)面接
 内定発表：1月25日(水)
- 学力**／願書受付：1月30日(月)～2月3日(金)必着
 選抜検査：2月19日(日)理科、英語、数学、国語
 検査会場：本校、名古屋
- 合格発表**／2月24日(金)10時(推薦内定者含む)

学科名	内訳	定員	志願者数			倍率	合格者数
			推薦	学力	計		
機械工学科		40	18(2)	46(1)	64(3)	1.6	42(3)
電気情報工学科		40	22(3)	52(3)	*74(6)	1.9	42(6)
電子制御工学科		40	23(0)	65(2)	*88(2)	2.2	42(1)
環境都市工学科		40	24(9)	37(9)	*61(18)	1.5	42(13)
建築学科		40	16(10)	58(16)	74(26)	1.9	41(17)
合計		200	103(24)	258(31)	361(55)	1.8	209(40)

() 内は女子で内数。

*電気情報工学科、電子制御工学科、環境都市工学科の志願者数計は推薦による選抜の結果、不合格となり、学力検査による選抜を志願した6名を含めて表示。

平成29年度学生会役員



- | | |
|--------------|----------------|
| ①学生主事 久保田 圭司 | ⑧体育局長 佐藤 奏斗 |
| ②校長 伊藤 義人 | ⑨文化局長 嶋口 大輝 |
| ③会長 坂井 晴哉 | ⑩書記局長 一色 寛登 |
| ④会計監査 本村 梨乃 | ⑪会計局長 青井 凱飛 |
| ⑤報道局長 高木 郁憲 | ⑫副会長 安藤 祐輝 |
| ⑥会計監査 渡邊 悠加 | ⑬選挙管理委員長 村上 颯太 |
| ⑦風紀局長 平澤 彦大 | |

平成28年度後期寮生会役員

後期寮生会役員は9月の後期寮生会役員研修で決定した方針と計画のもとにクリスマス会、スキー研修、成人祝賀会等の行事を実施し、雄志寮の運営を務めてきました。

役職名	学年	学科	氏名
寮長	4	C	安藤 祐輝
副寮長	4	E	坂井 晴哉
書記長	4	D	高木 郁憲
広報委員長	3	M	日比野輝也
会計委員長	4	A	青井 凱飛
厚生委員長	3	D	木戸 俊佑
文化委員長	3	A	水谷 嘉宏
企画委員長	3	C	中畑 列賀
会計監査	3	M	小倉 大将

寮務主事 麻草 淳

役職名	学年	学科	氏名
会計監査	3	A	柳田 大地
A寮総代	3	C	山本祥太郎
B寮総代	3	A	山口 拳生
C寮総代	3	A	桂川 太一
D寮総代	4	A	一色 寛登
第1女子寮総代	4	C	稲川 桃子
第2女子寮総代	5	D	小栗 静華
留学生寮総代	4	A	メサー
選挙管理委員長	4	D	平澤 彦大

第55回東海地区国立高等専門学校体育大会

主管校 豊田工業高等専門学校

種目担当校	実施種目 (16種目)	実施日
沼津	ソフトテニス	6月24日(土)・25日(日)
	バレーボール	6月24日(土)・25日(日)
	弓道	6月24日(土)
鈴鹿	バドミントン	7月1日(土)・2日(日)
	サッカー	7月8日(土)・9日(日)
	ハンドボール	7月8日(土)・9日(日)
岐阜	硬式野球	7月1日(土)・2日(日)
	雨天順延：予備日	7月3日(月)・4日(火)
	剣道	6月24日(土)・25日(日)
	卓球	6月24日(土)・25日(日)
鳥羽	柔道	6月24日(土)・25日(日)
	水泳	7月15日(土)・16日(日)
	ラグビーフットボール	11月5日(日)
豊田	陸上競技	6月24日(土)・25日(日)
	テニス	7月1日(土)・2日(日)
	空手道	6月24日(土)
	バスケットボール	6月24日(土)・25日(日)

第52回全国高等専門学校体育大会

担当校：小山工業高等専門学校

開催校	競技種目	競技日程
長野	陸上競技	8月26日(土)～27日(日)
	バスケットボール	男子 8月26日(土)～27日(日) 女子 8月26日(土)～27日(日)
東京都立(品川)	バレーボール	男子 8月18日(金)～19日(土) 女子 8月18日(金)～19日(土)
小山	ソフトテニス	8月23日(水)～24日(木)
茨城	卓球	8月19日(土)～20日(日)
長岡	柔道	8月26日(土)～27日(日)
サレジオ	剣道	8月19日(土)～20日(日)
群馬	硬式野球	8月22日(火)～24日(木)
東京都立(荒川)	サッカー	8月23日(水)、24日(木)、26日(土)、27日(日)
神戸市立	ラグビーフットボール	12月22日(金)～27日(水)
東京	ハンドボール	8月26日(土)～27日(日)
木更津	テニス	8月23日(水)～25日(金)
長岡	バドミントン	8月19日(土)～20日(日)
小山	水泳	8月26日(土)

第54回東海地区国立高等専門学校体育大会成績結果

競技名	成績
ラグビー・フットボール	優勝 全国大会に出場したが1回戦で敗退となった。

コンテスト報告

アイデア対決・全国高専ロボコン2016 東海北陸地区大会成績結果

競技課題	成績
ロボット・ ニューフロン ティア	A チーム ShiRáKaWa GO (シラカワゴ) 2回戦敗退
	B チーム のぶちゃんズ (ノブチャンス) 2回戦敗退

「高専ロボコン2016報告」

ロボット研究会 顧問 **田島 孝治**

今年の高専ロボコンはブロック運びが課題でした。海を船に見立てた台車を利用して超えて、新大陸にブロックで砦を作るという今回の競技ですが、何より最大の特徴はロボットの台数制限がなくなったことでした。他高専の多くが2台のロボットでこの課題に挑む中、本校では上級生チームが4台のロボットが連携、合体するというアイデアで大会に臨みました。一方の下級生は、大型のロボット+小型のロボットという2台構成での挑戦でした。



大会当日は、残念ながら試合開始前からロボットのトラブルが多発、下級生チームは空気を送り込むチューブが破損し、上手く動作できずに豊田高専との第2試合で敗退してしまいました。上級生もテストランで不具合が見つかり、なんとか修理して試合に臨みましたが、ケーブルの接続部分が突然切れるというトラブルが発生し、福井高専に第2試合で敗れました。当初のアイデアを披露できないという残念な結果でしたが、試合の3分間で最高のパフォーマンスができるよう、来年にむけて部員一同気持ちを入れ直し再挑戦していく予定です。今後とも宜しくお願いいたします。

今年の上級生のロボットはYoutubeのビデオと動作の様子を公開しています。興味のある方は次のタイトルで検索してもらえると見つかります。「高専ロボコン2016 岐阜高専 B「のぶちゃんズ」高専祭ロボコンデモ」
https://www.youtube.com/watch?v=6Bd9Sr_vvWY

英語スピーチコンテストに参加して

建築学科 第5学年 **西田 真**

平成28年10月12日に富山高専本郷キャンパスで開催された第10回東海北陸地区高専英語スピーチコンテストに出場しました。参加して感じたことは、英語学習の大切さと難しさです。留学を経験していたこともあり、多少自信はありましたが、思うように発音できず先生に叱られながら何度も練習しました。残念ながら入賞はできませんでしたが、英語に真摯に向き合い、他高専の学生の素晴らしい発表を聞くことが出来、とても充実した体験が出来ました。昔、恩師に「英語とは世界中の人と仲良くなれる可能性を作り出すもので、世界中の人が仲良くなれば戦争を無くすことが出来る」と教わりました。高専生にとって英語学習は苦難の一つですが、とても大切なものです。後輩の皆さんも頑張ってください。

デザコン2016 in 高知

専攻科特別実験担当 **下村 波基**

高知で開催されたデザコン構造部門ブリッジコンテストはスパン900mmの中央に60kgの荷重に耐える橋を如何に軽く作るかを競う競技です。今回の素材は直径2mm以下の銅線で、それをハンダ付けで組み立てます。専攻科1年の特別実験でPBL教育の一環として平成18年頃から毎年参加しています。アイデアを創出し、小さな試作品を発展させ、競技用の作品に仕上げていく過程を大切に、昔前のオリンピックではありませんが「参加することに意義がある」と思っていたのですが、ドラゴズやグランパス並みの低迷振りを思うと、意義に異議を唱えざるを得ません。来年度は岐阜高専が主幹での大会になることもあり、それを機に神った飛躍の年としたいものだと思うこの頃です。



全国高等専門学校第27回プログラミングコンテスト報告

電気情報工学科 第5学年 **岡地 涼輔**

私はコンピュータ倶楽部の活動の一環として例年参加している「全国高等専門学校プログラミングコンテスト(プロコン)」に、第27回大会の競技部門として4D岩田君、2D柴野君と共に参加しました。参加経験はプロコン、競技部門共に3回目となります。

今回の競技部門は、「与えられた木製のパズルを枠に入れるように配置する」というもので、参加した過去の大会には無いAD変換をし、解を求めてから更にDA変換を行うことが大きな障壁となりました。その影響もあり、本選では変換を必要としない入力による回答が上位を占め、プログラムを実行するなら近似解ではなく最適解の導出が求められました。そのような状況で私たちは、作成したプログラムを信じて実行しました。結果は1回戦敗退に終わりましたが、自分達のやり方で戦い抜くことができ、良かったと思います。

今回のプロコンで得た経験をもとに、来年度の参加に向けた取り組みを行っていきます。お世話になりました皆様には深く感謝申し上げます。



平成28年度パテントコンテスト優秀賞(特許出願支援対象)受賞

岩瀬 裕之

平成28年度のパテントコンテスト(主催:文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館)に建設工学専攻2年 堀口智哉君、電子システム工学専攻2年 石原一輝君、鹿野隼平君、篠原陽介君のチームが考案したロープディスプレイが優秀賞(特許出願対象)を受賞しました。専攻科2年前期の科目「創造工学実習」での取り組みの成果を応募したものです。今年度は全国の高校生、高専生や大学生から340件の応募があり、その中から31件が選出されています。1月23日に表彰式がありました。現在は創造工学実習でも指導していただいた樋口弁理士の下で、特許出願のための書類作りをしています。



クラブ紹介・同好会紹介

写真部

一緒に写真を撮って楽しみませんか？

建築学科 第4学年 阿部 友理

写真部では、学内での撮影会の他に、年に1〜2度の撮影旅行を行っています。今年度は愛知県犬山市の日本明治村へ行き、部員間で楽しみながら撮影のコツを学びました。そして、撮影旅行で撮った写真は写真展に出品しています。

また、高専祭では毎年、写真展を開催し、各々が撮った写真を展示しています。今回の写真展では「日本」というテーマで自分の思う日本を表した写真を展示しました。

1年から5年生まで34名で和気あいあいと活動しています。多くの部員が兼部しているの他の部活に入っている方も、写真に興味があれば是非一緒に活動しましょう！



コンピュータ部

岐阜高専コンピュータ倶楽部

電気情報工学科 第3学年 丹羽 拓実

私達「コンピュータ倶楽部」は、今年度部員50名を超え、コンピュータを用いた様々な活動を行っています。

1つ目はプログラミングです。多くの部員が1年生からC言語の学習をし、プログラミングの基礎を身につけています。これを応用し、パソコン甲子園やプログラミングコンテストなどの各種コンテストにも参加しています。2つ目はグループによるゲーム制作です。2年生を中心にオリジナルのゲームを自分達で企画、制作し、毎年高専祭で来場者に楽しんでもらえるようにしています。今年は5つの新作ゲームを展示しました。また、技術力や発想力の向上を目的に部内コンテストも開催しています。

3つ目はデジタルコンテンツの制作です。デジタルペイントによるイラスト作成では、パソコン甲子園に参加し、DTMを用いた音楽作成では、オリジナルCDを作成し高専祭で配布をしました。

さらに来年度からは、ETロボコンやスマートフォンアプリケーション開発等にも力を入れていく予定です。



エコラン部

岐阜高専エコラン部

機械工学科 第4学年 佐藤 大輝

1Lのガソリンを使って、どれだけ距離走らせることができるか。エコランとは自作したマシンで燃費を競う競技です。私たちエコラン部はより低燃費なマシンを製作するために日々活動しています。

春は鈴鹿サーキットで、秋は岐阜でエコランの大会があり、そこでよい記録を出すことが私たちの目標です。

そのマシンは原付の50ccエンジンを動力にしています。このエンジンはどのチームも同じものを使用しているため、よい記録を出すには改良をしなければなりません。例えば軽量化のために不必要な部品を取り除いたり、高効率化のために精度の良いパーツに交換したりしています。良い記録を出すためにはエンジンだけでなく、フレームや足回りも重要な要素となってきます。フレームは剛性が高く、かつ軽量なものを、ホイールやタイヤは抵抗の少ないものを、など部員みんなでアイデアを出し合い、1からマシンを製作しています。

今年度新しいマシンが完成させることができましたが、満足のいく記録は出ていません。今後記録を伸ばしていきたい、燃費1000km/Lを達成したいです。

エコランが気になるという人はぜひ見学に来てください。



図 岐阜大会の様子

エコエネルギー研究会 (同好会)

顧問 和田 清

エコエネルギー研究会

エコエネルギー研究会(同好会)は2007年に設立されました。部員が増えないのが悩みですが、今年で10年目を迎えます。最近では東海北陸地区の高専が地域の自然資源を活用した小水力発電のアイデアを提案し、設計・製作・設置を通じて自身の技術と社会への関わりを学ぶ「小水力発電アイデアコンテスト」に毎年参加しています。異なる学科の学生や教職員などと連携し、地域の担い手として課題を解決する力を培うための題材として小水力発電に取り組むことは有効だと考えています。また、早い時期から学科の垣根を越えて融合し取り組む機会を増やすことが必要です。

このコンテストは東日本大震災が生じた2011年度に郡上市からスタートし、その後、いなべ市、鯖江市、豊田市、南砺市を経て、2016年度は高山市で開催します。過去に、アイデア賞、地域貢献賞、市長賞などを受賞し奮闘しています。今年度は1/2モデルの水車等を3Dプリンターで製作し、水車効率などを水理実験により検討して本選に臨みます。



部員による現地測量

平成28年度 海外インターンシップ 派遣者一覧

平成28年度 包括交流協定等締結大学 留学生受入一覧

派遣先機関・大学	国名	学生氏名	実習開始日	実習終了日
TYK Limited (株) TYK 海外現地法人)	イギリス	後藤孝史	8月22日	9月12日
		野田米太		
アイオワ大学	アメリカ合衆国	三輪昌徳 村瀬 功	8月26日	9月15日
トリノ工科大学 タシケント校	ウズベキスタン	永井孝英 牧野 聡	8月22日	9月12日
ライプニッツ・ハノーバー大学	ドイツ	河崎拳吾 前田宗春	8月16日	9月5日
バンドン工科大学	インドネシア	伊藤大樹	9月1日	9月22日
		高木康平		
		宮崎泰樹		
マレーシア工科大学	マレーシア	大野宏尚	9月1日	9月21日
		武山真大		
		山田昇生		
General Atomics カリフォルニア大学サンディエゴ校	アメリカ合衆国	堀江弘将	8月21日	9月19日

大学名	国名	所属	人数	開始日	終了日
アイオワ大学	アメリカ合衆国	大学院	1	6月6日	6月24日
		学部	1	6月8日	6月22日
			1	6月6日	7月15日
タシケント工科大学	ウズベキスタン	大学院	3	7月1日	7月20日
トリノ工科大学 タシケント校		学部	3	7月15日	7月27日
ハノーバー大学	ドイツ	大学院	3	7月26日	8月5日
バンドン工科大学	インドネシア	学部	3	6月14日	7月22日
マレーシア工科大学	マレーシア	大学院	1	7月15日	7月26日
			2	8月22日	9月2日
リパブリック・ポリテクニク	シンガポール	学部	2	11月1日	2月28日